

0001 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

着工前の搬出入条件の調査として、最も適切なものはどれか。
ア．工事車両の進入経路、道路幅員、交差点、時間帯規制、歩行者動線を現地で確認し、搬出入計画に反映する。
イ．道路幅員は竣工時に確認すればよく、着工前の調査対象から除外する。
ウ．工事車両の経路は運転者に一任し、現場では定めない。
エ．搬出入条件は図面だけで判断し、現地確認は省略する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。搬出入条件は安全・工程・近隣影響に直結するため、現地条件と規制を施工計画へ反映する。
イ：不適切。道路幅員や旋回条件は車両選定や搬入計画に影響するため着工前確認が必要である。
ウ：不適切。第三者災害や交通障害を防ぐため現場側で経路・時間帯等を計画する。
エ：不適切。架空線、実際の交通量、道路の使われ方などは現地確認が重要である。
総合解説：適切。搬出入条件は安全・工程・近隣影響に直結するため、現地条件と規制を施工計画へ反映する。
この問題の中心論点は「敷地周辺の搬出入条件を事前に把握する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0002 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

掘削予定範囲に地下埋設物がある可能性がある場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．既存図面に記載があれば、現地での確認は一切不要とする。
イ．管理者資料や既存図面を確認したうえで、必要に応じて探査・試掘を行い、位置と深さを確認して掘削計画に反映する。
ウ．掘削を開始し、埋設物が見つかった時点で初めて管理者へ照会する。
エ．地下埋設物は設備工事だけの問題なので、建築施工計画では扱わない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。既存図面と実位置が一致しない可能性がある。
イ：適切。埋設管の損傷は重大事故や供給停止につながるため、資料確認と必要な現地確認を組み合わせる。
ウ：不適切。掘削前に調査・照会し、損傷防止策を講じる。
エ：不適切。掘削、山留め、杭、仮設計画にも大きく影響する。
総合解説：適切。埋設管の損傷は重大事故や供給停止につながるため、資料確認と必要な現地確認を組み合わせる。この問題の中心論点は「地下埋設物のリスクを事前に把握する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0003 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

工事前に近隣建物の現況調査を行う主な目的として、最も適切なものはどれか。
ア．近隣建物の調査は工事完了後に初めて実施する。
イ．現況写真は不要で、口頭確認だけで十分とする。
ウ．ひび割れ、傾斜、外壁等の現況を記録し、工事中・工事後の変化の評価や紛争予防に活用する。
エ．近隣調査は施工方法に影響しないため、施工計画とは無関係である。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。比較基準を得るため工事前の現況把握が重要である。
イ：不適切。日時や位置を特定できる客観的記録が望ましい。
ウ：適切。工事前の客観的記録は、工事による影響の有無を比較する基礎資料になる。
エ：不適切。近接施工や振動対策、計測計画等に影響する。
総合解説：適切。工事前の客観的記録は、工事による影響の有無を比較する基礎資料になる。この問題の中心論点は「近隣建物の現況調査の目的を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0004 施工計画 > 事前調査 | 難易度：応用

工事に用いるベンチマークの取扱いとして、最も適切なものはどれか。
ア．資材搬入の邪魔になれば、記録せず任意に移動してよい。
イ．ベンチマークは仮設物なので、測量記録を残す必要はない。
ウ．ベンチマークの確認は躯体完成後に一度行えばよい。
エ．工事中に移動・損傷しにくい位置に設け、位置・標高を記録し、必要に応じて他の基準点との関係を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。任意移動は基準高さの不整合を招く。
イ：不適切。施工基準となるため記録が必要である。
ウ：不適切。工事中の変位・損傷リスクに応じて確認する。
エ：適切。基準点の誤りは建物全体の出来形へ波及するため、保全と照合が重要である。
総合解説：適切。基準点の誤りは建物全体の出来形へ波及するため、保全と照合が重要である。この問題の中心論点は「工事用基準点の管理を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0005 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

地盤・地下水に関する事前調査の扱いとして、最も適切なものはどれか。
ア．既往の地盤調査資料と現地条件を確認し、地下水位や地層構成を掘削、山留め、揚水、基礎施工の計画条件として扱う。
イ．地下水位は構造設計だけに係し、施工計画では考慮しない。
ウ．古い地盤調査資料は、現地状況を確定せずそのまま使用する。
エ．山留め方式は地盤条件によらず同一方式を採用する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。地盤・地下水条件は施工方法、仮設、安全、周辺地盤への影響を左右する。
イ：不適切。掘削底の安定、湧水、揚水、周辺沈下等に関係する。
ウ：不適切。造成や周辺工事等による変化の可能性を確認する。
エ：不適切。土質、地下水、掘削深さ、周辺条件等に応じて選定する。
総合解説：適切。地盤・地下水条件は施工方法、仮設、安全、周辺地盤への影響を左右する。この問題の中心論点は「地盤・地下水条件を施工計画へ反映する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0006 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

仮設電力・給排水の事前調査として、最も適切なものはどれか。
ア．仮設電力は不足が判明してから増設すればよく、着工前の負荷検討は不要である。
イ．引込み位置、供給可能容量、施工用需要、使用開始時期、必要手続きを確認し、仮設設備計画へ反映する。
ウ．給水条件は現場事務所だけに係し、施工用水は考慮しない。
エ．供給者との手続き期間は工程計画に含めない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。増設には手続きや工期が必要なため事前計画が重要である。
イ：適切。必要容量と供給条件を事前に把握しなければ、施工機械や仮設設備の稼働に支障が生じる。
ウ：不適切。洗浄、養生、試験等の施工用水も含める。
エ：不適切。引込み・契約のリードタイムは工程条件になる。
総合解説：適切。必要容量と供給条件を事前に把握しなければ、施工機械や仮設設備の稼働に支障が生じる。この問題の中心論点は「仮設電力・給排水の供給条件を事前把握する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0007 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

学校に隣接する建築工事で騒音の大きい作業を計画する場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．工程効率を最優先し、学校の利用時間は考慮しない。
イ．苦情が出た後に初めて対策を検討する。
ウ．学校の授業・試験時間等を事前に確認し、騒音の大きい作業の時間帯や施工方法を調整する。
エ．仮囲いがあれば、作業時間の調整は不要である。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。近隣環境条件は施工時間や方法の選択に反映する。
イ：不適切。事前調査により予防策を講じることが重要である。
ウ：適切。周辺施設の利用条件を把握し、発生源対策や作業時間調整を組み合わせる。
エ：不適切。遮音だけで十分とは限らず複数対策を検討する。
総合解説：適切。周辺施設の利用条件を把握し、発生源対策や作業時間調整を組み合わせる。この問題の中心論点は「周辺施設の利用条件を環境対策へ反映する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0008 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

クレーン等の揚重設備の配置検討で、着工前に確認すべき事項として最も適切なものはどれか。
ア．最大定格荷重だけ確認すれば、設置位置は自由に決められる。
イ．架空線は高所にあるため、旋回範囲の調査対象外とする。
ウ．設置地盤は機種選定後には確認しなくてよい。
エ．揚重重量・作業半径に加え、設置地盤、架空線、旋回範囲、道路条件、周辺建物との干渉を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。作業半径や地盤条件等により実使用能力は変わる。
イ：不適切。接触・近接リスクがあるため重要な調査対象である。
ウ：不適切。沈下・転倒防止のため支持条件を確認する。
エ：適切。揚重能力だけでなく、支持条件と周辺干渉を一体で確認する必要がある。
総合解説：適切。揚重能力だけでなく、支持条件と周辺干渉を一体で確認する必要がある。この問題の中心論点は「揚重計画に必要な事前条件を把握する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0009 施工計画 > 事前調査 | 難易度：応用

工事に関係する許認可・届出の事前調査として、最も適切なものはどれか。
ア．道路使用・占用、騒音・振動、廃棄物等について要否と期限を整理し、担当者と申請時期を工程へ組み込む。
イ．許認可は現場作業と独立しているため、工程表には反映しない。
ウ．届出の要否は協力会社だけが判断し、元請は確認しない。
エ．行政手続きは着工後でも必ず遡って有効になる。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。手続き未了は作業開始を妨げるため、施工条件として管理する。
イ：不適切。許可取得が作業開始条件になる場合がある。
ウ：不適切。元請は工事全体の条件を把握し管理する。
エ：不適切。所定の時期までに完了すべき手続きがある。
総合解説：適切。手続き未了は作業開始を妨げるため、施工条件として管理する。この問題の中心論点は「許認可・届出を工程条件として整理する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0010 施工計画 > 事前調査 | 難易度：基礎

稼働中の建物内で改修工事を行う場合の事前調査として、最も適切なものはどれか。
ア．設備停止は施工当日に協力会社が判断すればよい。
イ．利用者動線、設備停止可能時間、騒音制限、養生範囲を確認し、施工区画と作業時間を計画する。
ウ．利用者動線は工事区域外なので施工計画の対象外とする。
エ．養生範囲は汚れた箇所だけ後から追加する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。停止範囲と時間は施設管理者等と事前調整する。
イ：適切。居ながら施工では施設運用条件が主要な施工制約となる。
ウ：不適切。工事動線との交錯防止のため重要である。
エ：不適切。既存仕上げ等の保護範囲を事前に設定する。
総合解説：適切。居ながら施工では施設運用条件が主要な施工制約となる。この問題の中心論点は「既存建物を使用しながら行う工事の制約を把握する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0011 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

敷地が狭い現場の施工ヤード計画として、最も適切なものはどれか。
ア．資材置場は最大量だけ確保し、使用時期や搬出入動線は検討しない。
イ．廃材置場は工事終盤だけ必要なので初期計画には含めない。
ウ．資材置場、車両待機、揚重、廃材集積に必要な面積と使用時期を整理し、相互干渉を避ける配置とする。
エ．狭隘現場では場外ヤードの利用を検討してはならない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。二重移動や車両渋滞の原因となる。
イ：不適切。初期から廃材・梱包材等は発生し得る。
ウ：適切。必要面積だけでなく使用期間と動線を重ねて計画することが重要である。
エ：不適切。場外保管や時間指定搬入は有効な選択肢である。
総合解説：適切。必要面積だけでなく使用期間と動線を重ねて計画することが重要である。この問題の中心論点は「限られた施工ヤードを時期別に計画する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0012 施工計画 > 事前調査 | 難易度：標準

事前調査の結果を施工計画へ反映する方法として、最も適切なものはどれか。
ア．調査結果は参考資料として保管し、施工計画書には反映しない。
イ．制約条件は現場代理人だけが把握し、関係職種には共有しない。
ウ．現場条件が調査結果と異なっても、当初計画を変更しない。
エ．判明した制約条件を一覧化し、施工方法、工程、仮設、品質・安全対策に対応付けて、担当者と時期を明確にする。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。実行計画へ反映しなければ調査の効果が無い。
イ：不適切。共通前提を共有しなければ手戻りや事故の原因となる。
ウ：不適切。条件変化を評価し必要に応じて計画を見直す。
エ：適切。調査を情報収集で終わらず、制約から具体的対応へ落とし込むことで実効性が高まる。
総合解説：適切。調査を情報収集で終わらず、制約から具体的対応へ落とし込むことで実効性が高まる。この問題の中心論点は「事前調査結果を実行計画へ反映する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0013 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

施工手順を計画する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．作業の前後関係、必要な検査、養生時間、他工種との取り合いを整理して施工手順を決める。
イ．各工種は独立しているため、他工種との取り合いを考慮しない。
ウ．検査は完成後にまとめて行い、中間確認は設けない。
エ．養生時間は工程短縮のため常に省略する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。手順は作業単体の順番だけでなく、品質確認や待ち時間、他工種条件を含めて成立させる。
イ：不適切。埋込みや施工空間等で相互依存する。
ウ：不適切。隠蔽部等は適切な時点で検査する。
エ：不適切。品質確保に必要な養生を確保する。
総合解説：適切。手順は作業単体の順番だけでなく、品質確認や待ち時間、他工種条件を含めて成立させる。
この問題の中心論点は「施工手順の基本的な組立て方を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0014 施工計画 > 施工手順 | 難易度：基礎

コンクリート躯体と設備工事の取り合いに関する施工手順として、最も適切なものはどれか。
ア．設備開口は躯体完成後に現場合わせで設けるのを原則とする。
イ．コンクリート打込み前に、設備スリーブやインサート等の位置を施工図で確認し、関係職種間で調整する。
ウ．施工図の取り合い確認は仕上工事開始後に行う。
エ．設計図があれば施工段階の調整は不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。事前調整可能な開口・埋込みは施工前に確定する。
イ：適切。躯体施工後のはつりや後加工を減らし、構造・防水・仕上げへの悪影響を防ぐ。
ウ：不適切。隠蔽・埋込み前に確認する必要がある。
エ：不適切。実施工では納まり、施工順序、許容差の調整が必要である。
総合解説：適切。躯体施工後のはつりや後加工を減らし、構造・防水・仕上げへの悪影響を防ぐ。この問題の中心論点は「躯体と設備の取り合いを事前調整する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0015 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

施工方法を選定する際の比較項目として、最も適切なものはどれか。
ア．最も安価な工法を必ず採用し、品質や安全条件は比較しない。
イ．施工スペースの制約は工法選定後に検討する。
ウ．品質、安全、工期、コスト、施工空間、周辺影響、資機材調達性を総合して比較する。
エ．資機材の調達期間は施工手順に影響しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。契約要求、安全、品質を満たすことが前提である。
イ：不適切。施工可能性に直結するため選定段階で確認する。
ウ：適切。単一指標ではなく、要求品質と現場条件を満たす実行可能性を総合評価する。
エ：不適切。長納期品や特殊機械は着手時期を左右する。
総合解説：適切。単一指標ではなく、要求品質と現場条件を満たす実行可能性を総合評価する。この問題の中心論点は「施工方法の選定条件を総合評価する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0016 施工計画 > 施工手順 | 難易度：応用

後工程で見えなくなる部分の品質確認方法として、最も適切なものはどれか。
ア．隠蔽部分は完成後の外観検査で代替する。
イ．検査結果が未確認でも、工程優先で次工程へ進む。
ウ．検査写真は施工手順と無関係なので撮影時期を計画しない。
エ．隠蔽前に必要な検査・記録を完了する確認点を施工手順に設定し、適合を確認してから次工程へ進む。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。外観から確認できない項目がある。
イ：不適切。必要な確認が次工程着手条件なら完了確認が必要である。
ウ：不適切。隠蔽部の記録は検査時点と連動させる。
エ：適切。後から確認できない品質特性は、施工手順の中に検査時点を明示する。
総合解説：適切。後から確認できない品質特性は、施工手順の中に検査時点を明示する。この問題の中心論点は「隠蔽前検査を工程上の確認点にする」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0017 施工計画 > 施工手順 | 難易度：基礎

防水工事の施工手順として、最も適切なものはどれか。
ア．防水下地の補修・清掃・必要な乾燥条件を満たしたことを確認してから防水層施工へ移る。
イ．下地に不陸や汚れがあっても、防水材を厚く施工して補う。
ウ．下地確認は防水完成後に行う。
エ．降雨直後でも工程優先で直ちに防水施工する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。後工程の品質は前工程の下地状態に依存するため、受入条件を満たしてから進む。
イ：不適切。接着不良や膜厚不均一等の原因になる。
ウ：不適切。施工後では下地を確認できない。
エ：不適切。工法ごとの下地・施工環境条件を確認する。
総合解説：適切。後工程の品質は前工程の下地状態に依存するため、受入条件を満たしてから進む。この問題の中心論点は「後工程の品質条件を満たしてから次工程へ進む」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0018 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

狭隘現場で資材の二重運搬を減らす方法として、最も適切なものはどれか。
ア．全資材を着工時に一括搬入し、長期保管する。
イ．取付順序に合わせて資材を搬入し、仮置き量を抑えて搬入から施工までの流れを短くする。
ウ．搬入順序と取付順序は無関係なので別々に計画する。
エ．資材の保管条件は搬入時期に影響しない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。狭隘現場では保管スペースや再運搬の問題が大きい。
イ：適切。施工順序と物流を同期させると、ヤード不足、荷傷み、二重運搬を抑えられる。
ウ：不適切。施工効率と保管性のため連携させる。
エ：不適切。品質保持条件により搬入時期を調整することがある。
総合解説：適切。施工順序と物流を同期させると、ヤード不足、荷傷み、二重運搬を抑えられる。この問題の中心論点は「資材搬入と取付順序を連携させる」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0019 施工計画 > 施工手順 | 難易度：基礎

施工中に想定外の地中障害物が判明した場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．当初工程を守るため、詳細を確認せず作業を継続する。
イ．変更内容は担当作業員だけで共有し、関係者には知らせない。
ウ．影響範囲を確認し、安全・品質・工程を再評価して、必要な施工手順や仮設計画を見直す。
エ．施工条件が変わっても、検査項目は一切見直さない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。不明条件での継続は安全・品質リスクを高める。
イ：不適切。関係職種等への適切な共有と記録が必要である。
ウ：適切。前提条件が変化した場合は、当初手順を機械的に続けず再計画する。
エ：不適切。工法変更に伴い必要な管理項目が変わることがある。
総合解説：適切。前提条件が変化した場合は、当初手順を機械的に続けず再計画する。この問題の中心論点は「施工条件変更時に手順を再評価する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0020 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

上階で火気作業、下階で可燃性仕上材の施工を予定している場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．工程短縮のため、作業内容にかかわらず同時施工を優先する。
イ．上下階は別空間なので相互に影響しない。
ウ．作業区画は日々の判断だけで変更し、工程調整は行わない。
エ．同時作業のリスクを評価し、必要に応じて作業時間や区画を分離し、火花・落下物等の影響を防ぐ。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。安全・品質上の干渉を評価する必要がある。
イ：不適切。火花、落下物、騒音、粉じん等が影響することがある。
ウ：不適切。関係工種間の計画的な調整が必要である。
エ：適切。危険源と影響を整理し、同時施工が不適切なら時間・空間を分離する。
総合解説：適切。危険源と影響を整理し、同時施工が不適切なら時間・空間を分離する。この問題の中心論点は「同時施工による作業干渉を防ぐ」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0021 施工計画 > 施工手順 | 難易度：応用

施工手順書に品質確認を組み込む方法として、最も適切なものはどれか。
ア．各工程について、誰が、いつ、何を確認し、どの記録を残すかをあらかじめ定める。
イ．記録は竣工時に記憶をもとにまとめて作成する。
ウ．確認者を定めず、現場にいる者が任意に確認する。
エ．写真があれば、数値や判定を含む検査記録はすべて不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。確認責任と記録方法を手順に組み込むことで、確認漏れと追跡性低下を防ぐ。
イ：不適切。施工時点で記録しなければ正確性が損なわれる。
ウ：不適切。責任と権限を明確にする。
エ：不適切。写真だけでは代替できない記録項目がある。
総合解説：適切。確認責任と記録方法を手順に組み込むことで、確認漏れと追跡性低下を防ぐ。 この問題の中心論点は「施工手順と品質記録を連動させる」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0022 施工計画 > 施工手順 | 難易度：標準

天井内設備と天井仕上げの施工順序として、最も適切なものはどれか。
ア．天井ボードを先に張り、設備工事は必要箇所を後から開口して施工する。
イ．設備配管・配線、必要な試験、断熱、支持等を確認してから天井ボードを閉じる。
ウ．設備試験は天井を閉じた後にのみ行う。
エ．天井内の工種は独立しており、施工順序調整は不要である。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。手戻りや仕上げ損傷を増やす。
イ：適切。天井閉鎖後に確認困難となる設備・支持・試験を先行して完了させる。
ウ：不適切。アクセス可能な段階で必要な確認を行う。
エ：不適切。スペースや支持、点検性の競合がある。
総合解説：適切。天井閉鎖後に確認困難となる設備・支持・試験を先行して完了させる。 この問題の中心論点は「天井内複数工種の施工順序を調整する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0023 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：標準

仮設計画の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．完成物に残らないため、仮設物の構造安全性は検討しない。
イ．着工後に各協力会社が個別に決めればよい。
ウ．施工中の安全性、作業性、物流、周辺影響、設置・撤去時期を考慮し、本工事工程と一体で計画する。
エ．撤去工程は本工事と無関係なので工程表へ反映しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。使用中の荷重や外力に対して安全でなければならない。
イ：不適切。動線、揚重、足場等の総合調整が必要である。
ウ：適切。仮設は本体工事を成立させる生産設備であり、設置から撤去まで工程と連動させる。
エ：不適切。撤去には揚重・搬出・復旧が伴う。
総合解説：適切。仮設は本体工事を成立させる生産設備であり、設置から撤去まで工程と連動させる。この問題の中心論点は「仮設計画を本工事と一体で組み立てる」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0024 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：基礎

仮設動線計画として、最も適切なものはどれか。
ア．最短距離を優先し、歩行者と大型車両を同一動線に集中させる。
イ．平面動線だけを考え、吊荷の通過範囲は考慮しない。
ウ．交差部は注意喚起だけで十分で、誘導等は検討しない。
エ．歩行者、工事車両、揚重作業の動線を可能な限り分離し、交差部には誘導・表示等の対策を設ける。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。交錯リスクが高まる。
イ：不適切。上空も含め立体的に確認する。
ウ：不適切。現場条件に応じて複数対策を組み合わせる。
エ：適切。人と車両・揚重作業の交錯を減らすことが基本である。
総合解説：適切。人と車両・揚重作業の交錯を減らすことが基本である。この問題の中心論点は「人と車両の動線を分離する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0025 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：標準

重機や大型車が通行する仮設道路の計画として、最も適切なものはどれか。
ア．地盤支持力、排水、路盤厚、車両荷重を考慮し、必要な補強を行う。
イ．短期間使用なので軟弱地盤でも補強せず使用する。
ウ．仮設道路では路面排水を考慮しない。
エ．大型車の輪荷重は作業床の支持検討に影響しない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。沈下、わだち、転倒等を防ぐため、実荷重と地盤・排水条件を反映する。
イ：不適切。使用期間にかかわらず安全な支持条件が必要である。
ウ：不適切。泥濘化や支持力低下を防ぐため排水が必要である。
エ：不適切。集中荷重として大きく影響する。
総合解説：適切。沈下、わだち、転倒等を防ぐため、実荷重と地盤・排水条件を反映する。この問題の中心論点は「重機用仮設道路の支持条件を確認する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0026 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：応用

タワークレーンの仮設計画として、最も適切なものはどれか。
ア．躯体完了後に初めて解体方法を検討する。
イ．設置・クライミング・解体時期を躯体工程と関連付け、解体用設備や搬出方法まで事前に成立させる。
ウ．クライミング時期は躯体進捗と無関係である。
エ．平面位置だけ決め、建物との干渉は施工時に調整する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。解体用設備や搬出経路を確保できないおそれがある。
イ：適切。揚重設備は設置から撤去まで本体工程に強く依存する。
ウ：不適切。建物高さと揚重能力を連携させる。
エ：不適切。旋回・ブーム等の干渉を事前検討する。
総合解説：適切。揚重設備は設置から撤去まで本体工程に強く依存する。この問題の中心論点は「揚重設備の設置から撤去まで工程化する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0027 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：基礎

仮設電力の容量計画として、最も適切なものはどれか。
ア．各機器の定格容量を無視し、コンセント数だけで容量を決める。
イ．施工段階が変わっても電力需要は一定とみなす。
ウ．同時使用機器の負荷、始動電流、施工段階による負荷変動を見込んで受電容量と系統を計画する。
エ．故障時の影響範囲は仮設電力系統で考慮しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。負荷容量を積み上げて検討する。
イ：不適切。躯体・仕上げ等で使用機器が変化する。
ウ：適切。ピーク負荷や始動時負荷を見込まないと遮断・施工停止を招くことがある。
エ：不適切。系統分けや保護装置配置が重要である。
総合解説：適切。ピーク負荷や始動時負荷を見込まないと遮断・施工停止を招くことがある。この問題の中心論点は「仮設電力のピーク負荷を見込む」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0028 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：標準

外部足場の計画として、最も適切なものはどれか。
ア．外装材の搬入荷重は足場計画で考慮しない。
イ．外装仕上げに影響するため壁つなぎは必要でも設けない。
ウ．外装工事完了前に足場を解体する方が工程短縮になる。
エ．外装工事の施工範囲、積載荷重、作業床、昇降、壁つなぎ、解体順序を考慮して計画する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。積載荷重は安全性に直結する。
イ：不適切。安全確保を前提に取り合いを調整する。
ウ：不適切。足場を必要とする検査・補修等を完了してから解体する。
エ：適切。足場は作業床だけでなく支持・固定・昇降・工程との整合まで含めて計画する。
総合解説：適切。足場は作業床だけでなく支持・固定・昇降・工程との整合まで含めて計画する。この問題の中心論点は「足場を作業・荷重・工程と整合させる」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0029 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：標準

現場事務所、資材置場、廃棄物集積所、車両動線の配置として、最も適切なものはどれか。
ア．火災・衛生・物流・第三者影響を総合して、避難経路や消防活動を妨げないよう相互干渉を避ける。

- イ．廃棄物集積所は搬出しやすければ避難経路をふさいでもよい。
- ウ．可燃物置場は火気作業場所の直近に設ける。
- エ．資材・廃棄物・車両動線は日々の空き場所で運用する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。仮設施設は用途ごとのリスクと物流を考慮して配置する。
イ：不適切。避難・消防活動に必要な経路を確保する。
ウ：不適切。火災リスクを考慮した離隔・区画が必要である。
エ：不適切。場内物流の混乱を防ぐため事前計画が必要である。
総合解説：適切。仮設施設は用途ごとのリスクと物流を考慮して配置する。この問題の中心論点は「仮設施設の相互干渉を防ぐ」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0030 施工計画 > 仮設計画 | 難易度：応用

掘削期、躯体期、仕上期で敷地の使い方が大きく変わる現場の仮設計画として、最も適切なものはどれか。
ア．着工時の仮設配置図1枚を全工期で固定使用する。
イ．施工段階ごとの仮設配置図を用意し、設備・動線・資材置場の切替時期を工程と連動して管理する。

- ウ．仮設切替は工程に影響しないため、切替日を設定しない。
- エ．仕上期でも躯体期の資材置場を固定し、内装材は場外待機させる。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。必要設備や利用可能空間は工事進捗で変化する。
イ：適切。現場空間の利用は工程とともに変化するため、仮設も段階的に更新する。
ウ：不適切。移設・撤去・再設置には時間が必要である。
エ：不適切。段階ごとの物流需要に合わせて見直す。
総合解説：適切。現場空間の利用は工程とともに変化するため、仮設も段階的に更新する。この問題の中心論点は「施工段階ごとに仮設配置を更新する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0031 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

バーチャート工程表の特徴として、最も適切なものはどれか。
ア．作業間の論理的依存関係とフロートを最も明確に計算できる。
イ．作業期間を表現できず、出来高だけを示す工程表である。
ウ．各作業の開始・終了時期と所要期間を時間軸上で直感的に把握しやすい。
エ．長期工程には使用できず、必ず日単位でのみ作成する。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。その用途にはネットワーク工程表が適している。
イ：不適切。作業期間を時間軸上に示すのが基本である。
ウ：適切。横棒で作業期間を示すため、日程の見やすさに優れる。
エ：不適切。工期に応じて月・週・日などの尺度を選べる。
総合解説：適切。横棒で作業期間を示すため、日程の見やすさに優れる。この問題の中心論点は「バーチャート工程表の特徴を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0032 工程管理 > 工程表 | 難易度：基礎

ネットワーク工程表の特徴として、最も適切なものはどれか。
ア．作業の前後関係は表現せず、出来高だけを累積表示する。
イ．資源量が決まれば自動的に品質規格値を算出する。
ウ．すべての作業に同じ余裕時間があることを前提とする。
エ．作業の順序関係を表し、クリティカルパスや余裕時間の把握に適している。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。前後関係の表現が主要な特徴である。
イ：不適切。品質規格値を求めるための図ではない。
ウ：不適切。経路や作業によりフロートは異なる。
エ：適切。依存関係を論理的に表し、工期を左右する経路の分析に利用できる。
総合解説：適切。依存関係を論理的に表し、工期を左右する経路の分析に利用できる。この問題の中心論点は「ネットワーク工程表の特徴を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0033 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

工程管理におけるマイルストーンの説明として、最も適切なものはどれか。
ア．着工、上棟、受電、竣工検査など、工程上の重要な節目や期限を示すために用いる。
イ．各作業の人員数だけを示す。
ウ．必ず数週間の作業期間を持つ。
エ．工程遅延の判定には利用できない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。期間を持つ作業というより、重要な到達点を管理する指標である。
イ：不適切。重要な節目・到達点を示す。
ウ：不適切。一般に節目として扱う。
エ：不適切。予定日と実績日を比較し、節目の遅れを把握できる。
総合解説：適切。期間を持つ作業というより、重要な到達点を管理する指標である。この問題の中心論点は「マイルストーンの意味を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0034 工程管理 > 工程表 | 難易度：応用

総合工程表と月間・週間工程表の使い分けとして、最も適切なものはどれか。
ア．週間工程表だけを作成し、竣工までの全体工程は管理しない。
イ．総合工程表で主要な節目と工種間関係を管理し、月間・週間工程表で直近の作業を詳細化する。
ウ．総合工程表にはすべての作業を分単位で記載する。
エ．月間・週間工程表は総合工程表と独立して作成する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。短期最適が全体工期と矛盾するおそれがある。
イ：適切。長期の全体最適と短期の実行管理では必要な粒度が異なる。
ウ：不適切。全体把握を阻害する過剰な詳細となる。
エ：不適切。上位工程の制約・目標と整合させる。
総合解説：適切。長期の全体最適と短期の実行管理では必要な粒度が異なる。この問題の中心論点は「総合工程表と短期工程表の役割を区別する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0035 工程管理 > 工程表 | 難易度：基礎

WBSと工程表の関係として、最も適切なものはどれか。
ア．WBSは工程の遅れを隠すために作業をまとめる手法である。
イ．WBSは検査の可否だけを記録する帳票である。
ウ．工事を管理可能な作業単位へ分解し、その作業を工程表のアクティビティとして時系列・依存関係へ展開する。
エ．WBSで分解した作業は工程表と関連付けない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。作業を階層的に分解して管理対象を明確にする。
イ：不適切。作業範囲を分解するための構造である。
ウ：適切。作業の抜け漏れを防ぎ、責任・所要期間・依存関係を定義しやすくする。
エ：不適切。作業単位をスケジュールへ展開して管理する。
総合解説：適切。作業の抜け漏れを防ぎ、責任・所要期間・依存関係を定義しやすくする。この問題の中心論点は「WBSと工程表の関係を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0036 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

計画出来高と実績出来高の累積曲線を比較する主な目的として、最も適切なものはどれか。
ア．個々の作業の前後関係を正確に特定する。
イ．累積出来高は工事が進むほど必ず減少する。
ウ．計画曲線と実績曲線の差は品質の可否だけを示す。
エ．工事全体の進捗が計画に対して先行しているか遅れているかを把握する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。依存関係はネットワーク工程表等で確認する。
イ：不適切。通常、累積値は進捗とともに増加する。
ウ：不適切。主として進捗・出来高差を示す。
エ：適切。累積出来高の差から全体的な進捗傾向を確認できる。
総合解説：適切。累積出来高の差から全体的な進捗傾向を確認できる。この問題の中心論点は「出来高曲線の用途を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0037 工程管理 > 工程表 | 難易度：基礎

長納期の外装材を工程表へ組み込む方法として、最も適切なものはどれか。
ア．取付日から逆算して、製作図承認、発注、製作、工場検査、輸送、搬入の各工程を設定する。
イ．現場取付日だけを工程表に記載し、製作・承認期間は管理しない。
ウ．発注時期は施工開始後に決めればよい。
エ．工場検査で不適合が出ても、取付工程は必ず同日に維持する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。現場取付だけでなく、承認・製作・物流が着手条件となる。
イ：不適切。調達遅延が直接工程遅延につながる。
ウ：不適切。必要日から逆算して管理する。
エ：不適切。是正・再検査の所要時間を考慮する。
総合解説：適切。現場取付だけでなく、承認・製作・物流が着手条件となる。 この問題の中心論点は「長納期品の調達工程を逆算する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0038 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

工程表への検査・養生の組み込み方として、最も適切なものはどれか。
ア．養生は作業ではないため、工程表上は所要時間ゼロとする。
イ．必要な養生期間や隠蔽前検査を作業として明示し、次工程の開始条件として管理する。
ウ．検査は工程外の管理業務なので、日程に影響しない。
エ．隠蔽前検査は仕上工程の後に設定する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。次工程開始条件となる場合は期間として管理する。
イ：適切。品質確保に必要な待ち時間・検査は実作業と同様に工程制約となる。
ウ：不適切。検査承認が次工程着手条件となる場合がある。
エ：不適切。確認可能な隠蔽前に設定する。
総合解説：適切。品質確保に必要な待ち時間・検査は実作業と同様に工程制約となる。 この問題の中心論点は「検査・養生を工程制約として扱う」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0039 工程管理 > 工程表 | 難易度：応用

同じクレーンを使う複数作業が同時時間帯に重なった場合の工程調整として、最も適切なものはどれか。
ア．ネットワーク上で並行可能なら、同じクレーンを同時に複数作業へ割り当てる。
イ．資源競合は施工当日に調整し、計画段階では無視する。
ウ．作業の優先順位や時間帯を調整し、共有資源の競合を解消した実行可能な工程にする。
エ．資源平準化は必ず工期を短縮する。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。物理的資源制約を超える計画は実行不能である。
イ：不適切。事前に平準化・優先順位付けを行う。
ウ：適切。論理上並行可能でも、共有資源が不足すれば実行できない。
エ：不適切。場合によっては作業時期調整で工期が延びることもある。
総合解説：適切。論理上並行可能でも、共有資源が不足すれば実行できない。この問題の中心論点は「共有資源の競合を工程に反映する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0040 工程管理 > 工程表 | 難易度：基礎

実施工程表の更新方法として、最も適切なものはどれか。
ア．一度承認された工程表は、実績が変わっても竣工まで更新しない。
イ．未着手作業の残期間は常に当初計画値のままとする。
ウ．完了した作業の実績日は記録しない。
エ．実績開始・完了、残作業期間、変更された前後関係を反映して定期的に更新する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。実績と見通しを反映する必要がある。
イ：不適切。条件変化を踏まえて必要に応じ見直す。
ウ：不適切。計画と実績の比較に必要である。
エ：適切。最新の実績と見通しを反映しなければ遅延予測に使えない。
総合解説：適切。最新の実績と見通しを反映しなければ遅延予測に使えない。この問題の中心論点は「実施工程表を実績で更新する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0041 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

工程表の詳細度の設定として、最も適切なものはどれか。
ア．全体工程では主要工種、週間工程では作業場所・班・日単位まで詳細化するなど、管理目的に応じて粒度を変える。
イ．すべての工程表を同じ粒度で作成する。
ウ．総合工程表に作業員一人ごとの分単位行動を記載する。
エ．週間工程表は主要マイルストーンだけを示す。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。長期と短期では意思決定に必要な情報量が異なる。
イ：不適切。長期と短期では必要な詳細度が異なる。
ウ：不適切。全体把握を阻害する過剰な詳細である。
エ：不適切。直近の実行管理にはより具体的な情報が必要である。
総合解説：適切。長期と短期では意思決定に必要な情報量が異なる。この問題の中心論点は「工程表の粒度を管理目的に合わせる」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0042 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

工程のベースライン管理として、最も適切なものはどれか。
ア．実績に合わせて基準工程を毎回上書きし、当初計画を残さない。
イ．承認した基準工程を保持し、実績・最新予測と比較して変更や遅延の影響を把握する。
ウ．ベースラインは進捗比較には使用しない。
エ．工程変更は理由を記録せず、最新工程だけ保存する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。差異分析の基準が失われる。
イ：適切。基準を残すことで、どの程度・なぜ変化したかを評価できる。
ウ：不適切。計画対実績の比較基準として利用する。
エ：不適切。変更理由と承認経緯を追跡できるようにする。
総合解説：適切。基準を残すことで、どの程度・なぜ変化したかを評価できる。この問題の中心論点は「基準工程を保持して差異分析する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0043 工程管理 > 工程表 | 難易度：応用

高層建物の仕上工事で、階ごとに同じ作業を繰り返す場合の工程計画として、最も適切なものはどれか。

- ア．すべての作業班を同じ階に集中させる。
- イ．階ごとの作業量差は考慮せず、すべて同じ人数・時間に固定する。
- ウ．階やゾーンごとに作業班を一定の流れで移動させ、工種間のタクトを調整して連続性を高める。
- エ．場所別工程は反復工事には不向きである。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。工種間干渉が増え、流れが途切れやすい。
イ：不適切。作業量差に応じてゾーン分け等を検討する。
ウ：適切。反復性の高い工事では場所と時間を対応させると生産性を管理しやすい。
エ：不適切。反復工事の流れを可視化するのに有効である。
総合解説：適切。反復性の高い工事では場所と時間を対応させると生産性を管理しやすい。この問題の中心論点は「反復作業で場所別工程を活用する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0044 工程管理 > 工程表 | 難易度：標準

- 過去の類似工事の工程実績データの活用方法として、最も適切なものはどれか。
- ア．過去の工程は現場ごとに違うため、一切参照しない。
 - イ．工程データは完成後に保存するだけで、施工中の意思決定には使わない。
 - ウ．クリティカルパスは一度計算すれば、工程変更後も必ず同じである。
 - エ．作業順序、所要日数、クリティカルパス等を比較し、現場条件の違いを考慮しながら新たな工程計画の妥当性確認に使う。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。条件差を踏まえれば有用な比較情報となる。
イ：不適切。進捗把握や先行予測にも活用できる。
ウ：不適切。実績や依存関係の変化で移動することがある。
エ：適切。実績データは無理・無駄の少ない工程計画や工程予測の改善に利用できる。
総合解説：適切。実績データは無理・無駄の少ない工程計画や工程予測の改善に利用できる。この問題の中心論点は「工程実績データを次の計画改善へ活用する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0045 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：標準

クリティカルパスの説明として、最も適切なものはどれか。
ア．原則として全体工期を決定する最長所要時間の経路で、経路上の作業遅延は工期へ直結しやすい。
イ．最も作業数が少ない経路をいう。
ウ．最も費用が高い作業だけを結んだ経路をいう。
エ．クリティカルパス上の作業は必ず大きな余裕時間を持つ。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。CPMでは工期を支配する経路を特定して重点管理する。
イ：不適切。作業数ではなく所要時間と余裕時間で決まる。
ウ：不適切。コストではなくスケジュール上の支配経路である。
エ：不適切。通常はトータルフロートがゼロまたは最小である。
総合解説：適切。CPMでは工期を支配する経路を特定して重点管理する。この問題の中心論点は「クリティカルパスの意味を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0046 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：基礎

経路A-C-Eが3日 + 5日 + 4日、経路B-D-Eが4日 + 3日 + 4日である。クリティカルパスの判断として、最も適切なものはどれか。
ア．B-D-Eは11日で短いので、B-D-Eがクリティカルパスとなる。
イ．A-C-Eは12日、B-D-Eは11日なので、A-C-Eがクリティカルパスとなる。
ウ．両経路は作業数が同じなので、必ず両方がCPとなる。
エ．Eが両経路に共通するので、クリティカルパスは判定できない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。原則として最長所要時間の経路がCPとなる。
イ：適切。並行経路のうち最長の12日経路が全体所要期間を支配する。
ウ：不適切。作業数ではなく所要時間で判断する。
エ：不適切。合流前の経路所要時間を比較できる。
総合解説：適切。並行経路のうち最長の12日経路が全体所要期間を支配する。この問題の中心論点は「複数経路からクリティカルパスを求める」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0047 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：標準

トータルフロートの説明として、最も適切なものはどれか。
ア．後続作業を一切遅らせない範囲の余裕時間だけを表す。
イ．作業に投入できる最大人数を表す。
ウ．プロジェクト全体の完了時刻を遅らせない範囲で、その作業を遅らせることができる時間の余裕を表す。
エ．品質規格値と測定値の差を表す。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。それはフリーフロートの考え方に近い。
イ：不適切。人的資源ではなく時間的余裕である。
ウ：適切。全体工期への影響を基準とした余裕時間である。
エ：不適切。工程管理上の時間余裕である。
総合解説：適切。全体工期への影響を基準とした余裕時間である。 この問題の中心論点は「トータルフロートの意味を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0048 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：応用

フリーフロートの説明として、最も適切なものはどれか。
ア．工事全体の完成を遅らせない最大の余裕時間を表す。
イ．作業開始前に必要な準備期間を表す。
ウ．クリティカルパス上の作業だけに必ず発生する。
エ．直後の作業の最早開始時刻を遅らせない範囲で、その作業を遅らせることができる時間を表す。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。それはトータルフロートの定義である。
イ：不適切。準備期間ではなく工程上の余裕である。
ウ：不適切。クリティカル作業では通常余裕はない。
エ：適切。後続作業の最早開始への影響を基準にした余裕時間である。
総合解説：適切。後続作業の最早開始への影響を基準にした余裕時間である。 この問題の中心論点は「フリーフロートの意味を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0049 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：基礎

A4日→C3日とB2日→D2日が並行し、CとDの両方完了後にE5日を行う。全体工期の判断として、最も適切なものはどれか。
ア．Cは7日目、Dは4日目に完了するためEは7日目から開始し、全体工期は12日となる。
イ．AとBを足した6日にE5日を加え、11日となる。
ウ．Dが4日目に終わるのでEを4日目から開始し、9日となる。
エ．全作業の所要日数を合計し、16日となる。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。合流作業Eは両方の先行作業が完了してから開始する。
イ：不適切。並行作業AとBを単純加算しない。
ウ：不適切。EはCとDの両方完了が条件である。
エ：不適切。並行作業があるため単純総和ではない。
総合解説：適切。合流作業Eは両方の先行作業が完了してから開始する。この問題の中心論点は「簡単なネットワークから全体工期を求める」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0050 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：標準

A4日→C3日とB2日→D2日が並行し、C・D完了後にE5日を行う。Dの余裕時間に関する説明として、最も適切なものはどれか。
ア．Dはクリティカルパス上なので余裕は0日である。
イ．Dは4日目に完了し、Eの最早開始7日目まで3日のフリーフロートを持つ。
ウ．Dの余裕はEの所要5日と同じ5日である。
エ．Dの余裕はB2日とD2日の合計4日である。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。B-D側は合流までに3日の余裕がある。
イ：適切。Dの最早完了4日と後続Eの最早開始7日の差が3日である。
ウ：不適切。後続作業の所要日数は余裕時間ではない。
エ：不適切。経路長そのものは余裕時間ではない。
総合解説：適切。Dの最早完了4日と後続Eの最早開始7日の差が3日である。この問題の中心論点は「合流前の作業のフロートを計算する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0051 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：基礎

トータルフロート0日のクリティカル作業が1日遅れた場合の影響として、最も適切なものはどれか。
ア．クリティカル作業は重要なので、遅れても工期に影響しない。
イ．1日遅れると必ず工期が2日遅れる。
ウ．他の短縮措置がなければ、原則として全体工期も1日遅れる。
エ．クリティカル作業の遅延は品質だけに影響する。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。工期を支配しているからクリティカルである。
イ：不適切。通常は遅延日数相当であり、回復策等にもよる。
ウ：適切。余裕を持たない工期支配作業の遅延は完了日に伝播しやすい。
エ：不適切。直接スケジュールへ影響する。
総合解説：適切。余裕を持たない工期支配作業の遅延は完了日に伝播しやすい。 この問題の中心論点は「クリティカル作業の遅延影響を判断する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0052 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：標準

同じ最長所要時間の経路が2本ある場合の工程管理として、最も適切なものはどれか。
ア．クリティカルパスは定義上必ず1本だけである。
イ．作業数が多い方だけを管理すればよい。
ウ．複数あると各経路の余裕時間は自動的に増える。
エ．両経路とも工期を支配するため、双方をクリティカルパスとして重点管理する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。同じ工期を持つ複数経路が存在し得る。
イ：不適切。いずれも工期を支配する。
ウ：不適切。むしろ余裕のない経路が複数ある状態である。
エ：適切。クリティカルパスは複数存在することがあり、余裕のない経路が増えるほど工程リスクが高まりやすい。
総合解説：適切。クリティカルパスは複数存在することがあり、余裕のない経路が増えるほど工程リスクが高まりやすい。 この問題の中心論点は「複数クリティカルパスのリスクを理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0053 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：応用

追加資源を投入して工期を短縮する場合の優先対象として、最も適切なものはどれか。
ア．クリティカルパス上で短縮可能かつ、追加費用に対する短縮効果が大きい作業を優先して検討する。

- イ．最もフロートが大きい非クリティカル作業を優先する。
- ウ．すべての作業へ同じ割合で人員を増やす。
- エ．工期短縮では安全性や施工可能性を検討しない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。非クリティカル作業を短縮しても余裕の範囲内なら全体工期は短縮しない。
イ：不適切。全体工期への効果が出にくい。
ウ：不適切。工期短縮効果のない作業にも費用が発生する。
エ：不適切。品質・安全・施工性を満たす必要がある。
総合解説：適切。非クリティカル作業を短縮しても余裕の範囲内なら全体工期は短縮しない。この問題の中心論点は「工程短縮の優先対象を判断する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0054 工程管理 > クリティカルパス | 難易度：標準

工程実績の更新に伴うクリティカルパスの扱いとして、最も適切なものはどれか。
ア．一度決めたクリティカルパスは竣工まで固定する。
イ．実績進捗や作業期間の変化により工期支配経路が変わることがあるため、工程更新時に再計算する。

- ウ．非クリティカル作業はどれだけ遅れてもクリティカルにならない。
- エ．CP再計算は品質検査結果が変わった場合に限る。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。工程条件の変化に応じて再評価する。
イ：適切。非クリティカル経路でもフロートを使い切れれば新たなクリティカルパスになり得る。
ウ：不適切。余裕を消費すれば工期支配側へ変化し得る。
エ：不適切。作業期間、依存関係、実績進捗等の変更で再計算する。
総合解説：適切。非クリティカル経路でもフロートを使い切れれば新たなクリティカルパスになり得る。この問題の中心論点は「工程更新時にクリティカルパスを再評価する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0055 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：標準

工程遅延を早期に把握する方法として、最も適切なものはどれか。
ア．竣工予定日の直前だけ進捗を確認する。
イ．実績完了率だけを見て、残作業量や工程上の重要度は確認しない。
ウ．計画開始・完了日、実績、残作業量を定期的に比較し、遅れがクリティカルパスへ及ぶ前に兆候を把握する。
エ．進捗が予定どおりなら将来の資材納期は確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。回復余地が小さくなる。
イ：不適切。CPへの影響や残作業を併せて評価する。
ウ：適切。遅延対策は結果確認ではなく、早期予測と先行対応が重要である。
エ：不適切。先行制約を確認し将来遅延を予防する。
総合解説：適切。遅延対策は結果確認ではなく、早期予測と先行対応が重要である。この問題の中心論点は「遅延兆候を早期に把握する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0056 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：基礎

工程遅延が発生した場合の初動として、最も適切なものはどれか。
ア．すべての遅延に残業増加だけで対応する。
イ．遅延は工程担当者だけの問題として施工・調達担当と共有しない。
ウ．遅延原因は責任追及につながるため記録しない。
エ．人員不足、資材納期、承認待ち、手戻り、天候など原因を特定し、原因に対応した回復策を選ぶ。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。原因と制約に適合した対策が必要である。
イ：不適切。複数部門にまたがる原因が多い。
ウ：不適切。再発防止と回復計画に必要である。
エ：適切。原因を特定せず一律に人員を増やしても、ボトルネックが別要因なら効果がない。
総合解説：適切。原因を特定せず一律に人員を増やしても、ボトルネックが別要因なら効果がない。この問題の中心論点は「遅延原因を分類して対策する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0057 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：標準

非クリティカル作業に余裕があり、クリティカル作業が遅れている場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．技能や施工条件を確認したうえで、非クリティカル作業の一部資源をクリティカル作業へ再配分する。

イ．フロートのない作業から人員を減らし、余裕の大きい作業へ移す。

ウ．技能や作業スペースを確認せず、単純に人数だけ増やす。

エ．非クリティカル作業のフロートは使用してはならない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。フロートを活用しつつ工期支配作業へ資源を集中する回復策である。

イ：不適切。工期支配作業をさらに遅らせる可能性がある。

ウ：不適切。増員で生産性が上がるとは限らない。

エ：不適切。全体工期を守る範囲で調整余地として活用できる。

総合解説：適切。フロートを活用しつつ工期支配作業へ資源を集中する回復策である。 この問題の中心論点は「フロートを利用して資源を重点配分する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0058 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：応用

工程短縮手法のファストトラッキングに関する説明として、最も適切なものはどれか。

ア．並行化すれば品質・安全リスクは必ず低下する。

イ．本来順番に行う作業の一部を重ねて並行化する方法で、手戻りや干渉リスクが増えるため条件を精査する。

ウ．物理的な前後関係があっても、すべて同時開始できる。

エ．人員を増やすだけの手法である。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。干渉や手戻りリスクが増えることがある。

イ：適切。時間短縮の可能性がある一方、未確定情報や同時施工によるリスクが高まる。

ウ：不適切。技術的・安全上の依存関係は無視できない。

エ：不適切。主に作業の順序・重なりを変更する手法である。

総合解説：適切。時間短縮の可能性がある一方、未確定情報や同時施工によるリスクが高まる。 この問題の中心論点は「ファストトラッキングの特徴を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0059 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：基礎

工程遅延の回復策を選定する際の考え方として、最も適切なものはどれか。
ア．最も費用が高い対策を自動的に採用する。
イ．工期短縮できるなら品質検査を省略してよい。
ウ．短縮できる日数、追加費用、品質・安全への影響、後続工程への波及を比較して選定する。
エ．対象作業だけを見て後続工程への影響を考えない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。費用と短縮効果は比例するとは限らない。
イ：不適切。要求品質を満たすことが前提である。
ウ：適切。工期だけでなく、総合的な影響と実現性を評価する。
エ：不適切。工程は依存関係でつながっている。
総合解説：適切。工期だけでなく、総合的な影響と実現性を評価する。この問題の中心論点は「回復策の費用対効果を評価する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0060 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：標準

長納期品の製作遅れが判明した場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．工場側の責任なので現場工程を更新せず入荷を待つ。
イ．代替品は承認を得ず現場判断だけで変更する。
ウ．分納は管理が増えるため、工程上有利でも常に禁止する。
エ．仕様変更可否、代替調達、分納、先行承認などを関係者と早期に検討し、工程影響を最小化する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。工程影響を評価して回避・低減策を検討する。
イ：不適切。設計・契約要求への適合確認が必要である。
ウ：不適切。条件を満たせば有効な対策になり得る。
エ：適切。納期直前まで待つより、選択肢が残る段階で対応する方が効果的である。
総合解説：適切。納期直前まで待つより、選択肢が残る段階で対応する方が効果的である。この問題の中心論点は「長納期品の遅延へ先行対応する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0061 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：標準

工程会議の運営として、最も適切なものはどれか。
ア．計画に対する実績、未完了理由、今後の制約、資材・承認状況、他工種干渉を確認し、対策の担当者と期限を明確にする。
イ．進捗率だけを確認し、未完了原因や今後の制約は議論しない。
ウ．課題の担当者を決めず、全員で注意することだけ決定する。
エ．他工種干渉は各社で解決するため全体会議では扱わない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。問題点を列挙するだけでなく、次の行動・責任者・期限まで決めることが重要である。
イ：不適切。将来遅延の予防には制約管理が必要である。
ウ：不適切。責任と期限が曖昧では是正が進みにくい。
エ：不適切。全体最適のため横断調整が必要である。
総合解説：適切。問題点を列挙するだけでなく、次の行動・責任者・期限まで決めることが重要である。この問題の中心論点は「工程会議で制約と担当期限を明確にする」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0062 工程管理 > 進捗・遅延対策 | 難易度：応用

正式な工期変更などで基準工程を変更する場合の記録管理として、最も適切なものはどれか。
ア．遅延が出るたびに基準工程を実績へ上書きし、差異をゼロにする。
イ．旧ベースラインと変更理由を保存し、変更前後の差異を追跡できるようにする。
ウ．正式な工期変更があっても基準工程は絶対に変更しない。
エ．変更理由は口頭共有だけとし、記録を残さない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。遅延実態と原因が追跡できなくなる。
イ：適切。基準工程の変更は可能だが、当初計画を消して遅延を見えなくする運用は適切でない。
ウ：不適切。承認変更に応じ新基準を設定することはある。
エ：不適切。変更管理の追跡性を確保するため記録が必要である。
総合解説：適切。基準工程の変更は可能だが、当初計画を消して遅延を見えなくする運用は適切でない。この問題の中心論点は「工程変更時も旧ベースラインを保持する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0063 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

品質計画の内容として、最も適切なものはどれか。
ア．完成後の不具合対応だけを定める。
イ．材料や施工精度を扱わず、工程だけを記載する。
ウ．設計図書で要求された品質を満たすため、材料、仕上げ、性能、精度等の目標と管理方法・体制を具体化する。
エ．現場担当者個人の経験に任せ、必要な管理方法を共有しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。施工前から目標・管理方法・体制を定める。
イ：不適切。材料、性能、精度等も品質計画の対象である。
ウ：適切。要求品質を施工段階で実現するための具体的な計画とする。
エ：不適切。関係者が共有できる具体的な管理方法が必要である。
総合解説：適切。要求品質を施工段階で実現するための具体的な計画とする。この問題の中心論点は「品質計画の意味を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0064 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：基礎

規格値と施工者の管理目標の関係として、最も適切なものはどれか。
ア．管理目標は必ず規格値より緩く設定する。
イ．規格値と管理限界線は常に同じ意味である。
ウ．規格値を満たせば、工程のばらつきは管理しなくてよい。
エ．規格値は適否判定の基準であり、安定して規格を満たすために規格より厳しい社内管理目標を設けることがある。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。通常は規格逸脱を予防するため安全側に設定する。
イ：不適切。規格値は要求事項、管理限界は工程の統計的狀態を見る基準である。
ウ：不適切。将来の規格外を防ぐには工程の安定性も重要である。
エ：適切。規格限界ぎりぎりを狙わず、ばらつきを考慮した管理幅を設けることは品質安定に有効である。
総合解説：適切。規格限界ぎりぎりを狙わず、ばらつきを考慮した管理幅を設けることは品質安定に有効である。この問題の中心論点は「規格値と管理目標の違いを理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0065 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

品質目標の設定方法として、最も適切なものはどれか。
ア．「仕上がりを良くする」という抽象目標だけでなく、寸法、平たんさ、強度、外観判定など確認可能な品質特性へ落とし込む。
イ．品質は感覚だけで評価し、測定値や判定基準を設定しない。
ウ．測定可能な特性は品質管理には不要である。
エ．外観品質は数値化できないため、見本を用いてはならない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。検証可能な特性と判定基準に具体化することで品質を管理できる。
イ：不適切。客観的に検証できる基準が必要である。
ウ：不適切。数値や判定基準は適合性確認の基礎となる。
エ：不適切。承認見本や限度見本で判定基準を共有できる。
総合解説：適切。検証可能な特性と判定基準に具体化することで品質を管理できる。この問題の中心論点は「品質特性を検証可能な形に具体化する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0066 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：応用

施工品質の適否判定の基準として、最も適切なものはどれか。
ア．協力会社の社内基準が設計図書より緩い場合、社内基準を優先する。
イ．設計図書、適用仕様書、承認された施工計画等の要求事項に基づいて判定する。
ウ．過去現場と同じ工法なら、今回の設計図書は確認しない。
エ．要求品質は完成時だけ確認し、施工中は管理しない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。契約上の要求品質を満たす必要がある。
イ：適切。施工者の慣行ではなく、契約上・技術上の要求事項への適合を確認する。
ウ：不適切。現場ごとの要求事項を確認する。
エ：不適切。施工段階で品質を作り込む必要がある。
総合解説：適切。施工者の慣行ではなく、契約上・技術上の要求事項への適合を確認する。この問題の中心論点は「設計図書の要求品質を基準にする」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0067 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：基礎

寸法の許容差に関する説明として、最も適切なものはどれか。
ア．許容差内であれば、測定方法や測定器の精度は考慮しなくてよい。
イ．許容差は目標値そのものであり、常に上限値を狙う。
ウ．設計値から許される変動範囲を示し、測定値がその範囲内にあるかを確認して適否を判定する。
エ．許容差があれば、施工中の工程管理は不要になる。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。測定結果の信頼性を確保する必要がある。
イ：不適切。中心値付近で安定させる方が規格外リスクを減らしやすい。
ウ：適切。許容差は受入可能な範囲を示す基準である。
エ：不適切。安定して許容範囲を満たす工程管理が必要である。
総合解説：適切。許容差は受入可能な範囲を示す基準である。 この問題の中心論点は「許容差の意味を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0068 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

規格適合品の材料を現場へ受け入れる際の確認として、最も適切なものはどれか。
ア．品質証明書があれば、搬入品種や外観の確認は不要である。
イ．外観に損傷があっても、規格証明があれば無条件で使用する。
ウ．搬入材料は数量だけ確認し、規格表示は確認しない。
エ．品質証明書等を確認するとともに、搬入品の品名・規格・数量・外観が承認内容と一致するか確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。誤納や損傷は書類だけでは防げない。
イ：不適切。使用に支障のある損傷等は適合性を確認する。
ウ：不適切。要求された品種・規格との一致確認が必要である。
エ：適切。書類上の適合だけでなく、現場へ搬入された実物との一致確認が必要である。
総合解説：適切。書類上の適合だけでなく、現場へ搬入された実物との一致確認が必要である。 この問題の中心論点は「材料品質証明と現物確認を組み合わせる」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0069 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：基礎

測定値がすべて規格内にあるが、時間とともに一方方向へ偏る傾向がみられる場合の判断として、最も適切なものはどれか。

ア．現在は規格内でも将来の規格外につながる可能性があるため、工程条件や原因を調べる。

イ．規格内なら、測定値の傾向やばらつきは確認しない。

ウ．工程が安定していれば、規格外が発生しても問題ない。

エ．工程管理では完成品だけを見て、施工条件は管理しない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。製品の現在適合と工程の安定性は別に評価する必要がある。

イ：不適切。工程異常の兆候を見逃す可能性がある。

ウ：不適切。工程安定と規格適合の両方が必要である。

エ：不適切。材料・機械・方法・環境等の原因系も管理する。

総合解説：適切。製品の現在適合と工程の安定性は別に評価する必要がある。 この問題の中心論点は「規格適合と工程安定性を区別する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0070 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

品質管理の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。

ア．品質管理は完成検査で不良品を除くことだけを意味する。

イ．完成時検査だけに依存せず、材料受入、施工条件、作業標準、中間確認を通じて工程内で品質を作り込む。

ウ．作業標準は熟練者には不要で、品質の再現性に関係しない。

エ．材料受入や施工条件は最終品質へ影響しない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。予防と工程管理が重要である。

イ：適切。不良を最後に選別するだけでなく、不適合が発生しにくい工程を管理する。

ウ：不適切。標準化はばらつき低減に有効である。

エ：不適切。品質結果の主要因となる。

総合解説：適切。不良を最後に選別するだけでなく、不適合が発生しにくい工程を管理する。 この問題の中心論点は「品質を工程内で作り込む考え方を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0071 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：応用

不具合発生時に影響範囲を特定しやすくする記録管理として、最も適切なものはどれか。
ア．品質記録は日付だけ残し、施工場所や材料ロットとの対応は不要とする。
イ．不具合が出なければ記録はすぐ廃棄する。
ウ．使用材料のロット、施工日、施工区画、施工班、検査結果を対応付けて記録する。
エ．トレーサビリティは工程管理だけの概念で品質管理には関係しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。対象範囲を追跡できなくなる。
イ：不適切。必要な期間は保持する。
ウ：適切。対象物と品質記録を紐付けることで原因究明と影響範囲特定がしやすくなる。
エ：不適切。品質問題の影響範囲特定に重要である。
総合解説：適切。対象物と品質記録を紐付けることで原因究明と影響範囲特定がしやすくなる。この問題の中心論点は「品質記録のトレーサビリティを確保する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0072 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：基礎

品質管理項目の重点付けとして、最も適切なものはどれか。
ア．すべての品質項目を必ず同じ頻度・同じ方法で管理する。
イ．隠蔽部は完成後に見えないため、管理の優先度を下げる。
ウ．手戻りコストは品質管理計画と関係しない。
エ．不具合が重大事故や大規模手戻りにつながる隠蔽部、防水、構造接合部などは、確認方法や頻度を強化する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。要求事項とリスクに応じた管理が合理的である。
イ：不適切。後から確認・補修しにくいいため重点管理が必要である。
ウ：不適切。重大な手戻りの予防も管理重点に関係する。
エ：適切。影響度や発生可能性に応じて重要管理点を設定する。
総合解説：適切。影響度や発生可能性に応じて重要管理点を設定する。この問題の中心論点は「品質リスクに応じて重点管理する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0073 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

色むらや仕上げ肌など数値化しにくい外観品質の管理方法として、最も適切なものはどれか。
ア．施工前に承認見本や限度見本を定め、関係者が同じ基準で判定できるようにする。
イ．外観品質は主観的なので、基準を共有することはできない。
ウ．承認見本は施工完了後に作成する。
エ．限度見本は数値測定できる項目にしか使えない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。視覚的品質では共通見本を基準にすると判定のばらつきを減らせる。
イ：不適切。見本等で許容範囲を共有できる。
ウ：不適切。施工前に目標・判定基準として確定する。
エ：不適切。外観等の官能的評価にも有効である。
総合解説：適切。視覚的品質では共通見本を基準にすると判定のばらつきを減らせる。この問題の中心論点は「承認見本を外観品質の判定基準にする」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0074 品質管理 > 品質特性・規格値 | 難易度：標準

要求精度が高い寸法管理で使用する測定器の選定として、最も適切なものはどれか。
ア．要求精度より粗い目盛でも、経験で補正すればよい。
イ．判定に必要な分解能と精度を持つ測定器を選び、定めた方法で測定する。
ウ．測定方法は測定者ごとに自由に変える。
エ．品質目標と測定器の精度には関係がない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。客観的な判定に必要な測定能力を確保する。
イ：適切。測定システムの能力が要求精度に対して不十分では、適合判定の信頼性が得られない。
ウ：不適切。標準化して測定ばらつきを抑える。
エ：不適切。測定能力は判定の信頼性に直接関係する。
総合解説：適切。測定システムの能力が要求精度に対して不十分では、適合判定の信頼性が得られない。この問題の中心論点は「要求精度に合った測定器を選ぶ」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0075 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

材料の受入検査として、最も適切なものはどれか。
ア．受入検査は施工後にまとめて行う。
イ．数量が合っていれば、品種・規格の確認は不要である。
ウ．設計図書・承認資料との一致、数量、外観、必要な品質証明等を確認し、不適合品を識別する。
エ．不適合品も適合品と同じ場所に保管する。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。使用前に適合性を確認する。
イ：不適切。誤納防止には品名・規格の確認が必要である。
ウ：適切。使用前に要求品との一致を確認し、不適合材料の混入を防ぐ。
エ：不適切。誤使用防止のため識別・隔離等を行う。
総合解説：適切。使用前に要求品との一致を確認し、不適合材料の混入を防ぐ。この問題の中心論点は「受入検査の基本を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0076 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：基礎

後工程で確認できなくなる部分の検査時期として、最も適切なものはどれか。
ア．竣工時に一括検査すればよく、中間検査は不要である。
イ．次工程が迫っていれば、検査結果を待たずに隠蔽する。
ウ．埋戻し後に地中部分を目視確認するのを原則とする。
エ．隠蔽、埋戻し、コンクリート打込み等の前に必要な検査を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。隠蔽後に確認できない品質項目がある。
イ：不適切。必要な確認を完了してから進む。
ウ：不適切。埋戻し前に確認する必要がある。
エ：適切。検査可能性を考慮して、確認できる時点を工程に組み込む。
総合解説：適切。検査可能性を考慮して、確認できる時点を工程に組み込む。この問題の中心論点は「隠蔽前に検査を行う」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0077 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

抜取試験の試料採取方法として、最も適切なものはどれか。
 ア．対象ロットを代表するよう採取位置・時点を定め、都合のよい試料だけを選ばない。
 イ．良好に見える箇所だけを選んで試験する。
 ウ．採取方法を毎回変え、記録を残さない。
 エ．試料と対象ロットの対応付けは不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。偏ったサンプリングではロット全体の品質を適切に評価できない。
 イ：不適切。選択バイアスが生じる。
 ウ：不適切。再現性と追跡性を確保する必要がある。
 エ：不適切。どの対象を代表する結果が明確にする。
 総合解説：適切。偏ったサンプリングではロット全体の品質を適切に評価できない。この問題の中心論点は「抜取試験の代表性を確保する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0078 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：応用

検査・試験に用いる測定器の管理として、最も適切なものはどれか。
 ア．購入時に確認すれば、その後の点検・校正は不要である。
 イ．要求精度に応じて点検・校正状態を管理し、有効な状態であることを確認して使用する。
 ウ．校正期限を過ぎても、値がそれらしければ使用してよい。
 エ．測定器の識別番号や校正記録は品質記録と無関係である。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。使用や経時でずれが生じる可能性がある。
 イ：適切。測定器が不確かなら、検査結果の信頼性も確保できない。
 ウ：不適切。定めた管理状態を満たしている必要がある。
 エ：不適切。測定結果の追跡性に関係する。
 総合解説：適切。測定器が不確かなら、検査結果の信頼性も確保できない。この問題の中心論点は「測定器の校正・点検状態を管理する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0079 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：基礎

検査で規格外が判明した場合の処置として、最も適切なものはどれか。
ア．工程遅延を避けるため、記録せずそのまま次工程へ進む。
イ．修正したら再検査せず自動的に合格とする。
ウ．対象範囲を識別し、原因と影響を確認して、修正・再施工等の処置を行い、処置後に再確認する。
エ．影響範囲を調べず、すべての施工を無条件で撤去する。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。不適合の管理と適切な処置が必要である。
イ：不適切。是正後の適合性を確認する。
ウ：適切。不適合の誤使用・流出を防ぎ、処置後の適合性を確認する。
エ：不適切。範囲と原因を確認して合理的な処置を選定する。
総合解説：適切。不適合の誤使用・流出を防ぎ、処置後の適合性を確認する。この問題の中心論点は「不適合発見時の処置を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0080 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

検査記録に残す情報として、最も適切なものはどれか。
ア．合否だけを記録し、対象場所は記載しない。
イ．不合格結果は修正後に記録から削除する。
ウ．確認者は記録せず、誰が判定したか残さない。
エ．対象、位置・ロット、日時、方法、結果、判定、確認者を記録し、後から追跡できるようにする。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。どこを確認した結果か追跡できない。
イ：不適切。処置経緯を含めて追跡できるようにする。
ウ：不適切。責任と追跡性のため確認者情報が必要である。
エ：適切。結果だけでなく対象と方法を特定できる記録が品質保証に必要である。
総合解説：適切。結果だけでなく対象と方法を特定できる記録が品質保証に必要である。この問題の中心論点は「検査記録の追跡性を確保する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0081 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：基礎

全数検査と抜取検査の使い分けとして、最も適切なものはどれか。
ア．不適合の影響、検査の破壊性、ロット数、確認の容易さ等を考慮して、要求品質に適した方式を選ぶ。
イ．対象に関係なく必ず抜取検査とする。
ウ．破壊試験でも全数検査を原則とする。
エ．検査頻度は品質リスクと無関係に常に最低回数とする。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。品質リスクと検査コスト・破壊性を考慮して方式を選定する。
イ：不適切。全数検査が適する項目もある。
ウ：不適切。製品を使用できなくなるため合理的でないことが多い。
エ：不適切。要求事項とリスクに応じて設定する。
総合解説：適切。品質リスクと検査コスト・破壊性を考慮して方式を選定する。この問題の中心論点は「全数検査と抜取検査を適切に使い分ける」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0082 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

監督職員等の立会検査を受ける前の施工者の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．立会検査がある場合、施工者の自主確認は不要である。
イ．自主検査で要求事項への適合を確認し、不備があれば是正してから立会検査を受ける。
ウ．立会時に不具合が見つければ、その場で考えればよい。
エ．自主検査結果は正式検査と無関係なので記録しない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。施工者自身の品質管理責任は代替されない。
イ：適切。立会検査を最初の品質確認の機会にせず、施工者自身が品質を確認する。
ウ：不適切。工程停滞と手戻りを防ぐため事前確認する。
エ：不適切。品質管理の実施記録として有用である。
総合解説：適切。立会検査を最初の品質確認の機会にせず、施工者自身が品質を確認する。この問題の中心論点は「立会検査前に自主検査を行う」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0083 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：応用

試験結果に明らかな異常値が出た場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．平均値を悪化させる異常値は自動的に削除する。
イ．再試験で良い値が出れば、最初の異常値の原因は調べない。
ウ．都合よく除外せず、試料採取、試験手順、測定器、施工条件を確認して原因を判断する。
エ．異常値は必ず測定ミスなので施工条件は確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。除外には客観的根拠が必要である。
イ：不適切。測定系や施工工程の異常を見逃す可能性がある。
ウ：適切。異常値には実際の品質異常と測定・試験エラーの両方があり得る。
エ：不適切。実際の品質異常の可能性もある。
総合解説：適切。異常値には実際の品質異常と測定・試験エラーの両方があり得る。この問題の中心論点は「試験結果の異常値を根拠なく除外しない」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0084 品質管理 > 検査・試験 | 難易度：標準

試験結果の判明まで数日かかり、合格確認が次工程の条件となる場合の工程管理として、最も適切なものはどれか。
ア．結果を待たずに不可逆な次工程へ進む。
イ．試験結果待ちは工程と無関係なので工程表に入れない。
ウ．立会者の日程は工程管理上考慮しない。
エ．試験実施日と結果判明までの期間を工程へ組み込み、適合確認後に不可逆な次工程へ進む。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。適否確認が次工程条件なら待つ必要がある。
イ：不適切。工程遅延の要因になり得る。
ウ：不適切。検査待ちを防ぐため事前調整する。
エ：適切。検査・試験は工程上の制約であり、結果待ち時間も計画する。
総合解説：適切。検査・試験は工程上の制約であり、結果待ち時間も計画する。この問題の中心論点は「検査結果待ち時間を工程へ組み込む」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0085 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：標準

ヒストグラムの主な用途として、最も適切なものはどれか。
ア．測定値の度数分布を可視化し、中心、ばらつき、分布形状や規格との関係を把握する。
イ．データの時間的な変化順序を最も詳しく示す。
ウ．原因と結果の因果関係を直接証明する。
エ．作業の前後関係とクリティカルパスを示す。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。多数データの分布状況を区間ごとの度数で表す。
イ：不適切。時間順の変化は管理図等が適する。
ウ：不適切。分布を示す図であり因果を証明しない。
エ：不適切。それはネットワーク工程表である。
総合解説：適切。多数データの分布状況を区間ごとの度数で表す。この問題の中心論点は「ヒストグラムの用途を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0086 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：基礎

管理図の主な用途として、最も適切なものはどれか。
ア．管理限界線は設計図書の規格上限・下限と必ず同じ値である。
イ．品質データを時間順に追い、管理限界との関係から工程の安定状態や異常原因の兆候を把握する。
ウ．データを大きい順に並べて主要原因を示す。
エ．2変数間の相関だけを確認する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。管理限界と規格値は別概念である。
イ：適切。工程の時間的変動と異常兆候を見るために用いる。
ウ：不適切。それはパレート図の特徴である。
エ：不適切。それは散布図の用途である。
総合解説：適切。工程の時間的変動と異常兆候を見るために用いる。この問題の中心論点は「管理図の用途を理解する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0087 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：標準

パレート図の利用方法として、最も適切なものはどれか。
ア．測定値の時間変化を管理限界線と比較する。
イ．2つの量の関係を点の分布で示す。
ウ．不具合件数や損失額を項目別に大きい順へ並べ、重点的に改善すべき項目を選ぶ。
エ．原因を骨の形に分類して洗い出す。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。それは管理図である。
イ：不適切。それは散布図である。
ウ：適切。少数の主要項目へ改善資源を集中する優先順位付けに有効である。
エ：不適切。それは特性要因図である。
総合解説：適切。少数の主要項目へ改善資源を集中する優先順位付けに有効である。この問題の中心論点は「パレート図で改善優先順位を決める」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0088 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：応用

外気温と材料硬化時間の散布図に強い関係が見られた場合の解釈として、最も適切なものはどれか。
ア．右上がりの点群なら、必ず一方が他方の原因である。
イ．散布図は1つの変数の度数分布だけを示す。
ウ．散布図は原因項目を件数順に並べる。
エ．両者に関連がある可能性は示せるが、散布図だけで温度が唯一の原因だと断定せず他要因も確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。第三の要因や偶然の可能性がある。
イ：不適切。それはヒストグラムの用途である。
ウ：不適切。それはパレート図の用途である。
エ：適切。相関関係と因果関係は同一ではない。
総合解説：適切。相関関係と因果関係は同一ではない。この問題の中心論点は「散布図から因果関係を断定しない」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0089 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：基礎

特性要因図の使い方として、最も適切なものはどれか。
ア．品質上の問題に対し、人、材料、機械、方法、環境などの観点から原因候補を体系的に洗い出す。
イ．測定値を階級に分けて度数分布を示す。
ウ．不具合項目を多い順に並べて累積比率を示す。
エ．工程の最長経路を計算する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。原因候補の抜けを減らし、調査・改善の着眼点を得るために用いる。
イ：不適切。それはヒストグラムである。
ウ：不適切。それはパレート図である。
エ：不適切。それはクリティカルパス法である。
総合解説：適切。原因候補の抜けを減らし、調査・改善の着眼点を得るために用いる。 この問題の中心論点は「特性要因図で原因候補を体系化する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0090 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：標準

不具合の発生条件を調べる方法として、最も適切なものはどれか。
ア．すべてのデータを混ぜるほど条件差を見つけやすい。
イ．チェックシートで発生事実を記録し、施工班、材料ロット、時間帯などで層別して集計する。
ウ．チェックシートがあれば原因を自動的に証明できる。
エ．層別は測定値を大きい順に並べる手法である。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。異なる集団の差が埋もれることがある。
イ：適切。事実を定型的に収集し、条件別に分けて比較すると偏りを見つけやすい。
ウ：不適切。原因候補を示す材料であり追加確認が必要である。
エ：不適切。属性・条件ごとにデータを分けて見る手法である。
総合解説：適切。事実を定型的に収集し、条件別に分けて比較すると偏りを見つけやすい。 この問題の中心論点は「チェックシートと層別を組み合わせる」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0091 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：基礎

2つの施工班の測定値の平均が同じである場合の品質評価として、最も適切なものはどれか。
ア．平均が同じなら品質の安定性も必ず同じである。
イ．ばらつきは規格適合に影響しない。
ウ．平均が同じでも、ばらつきが大きい班は規格外発生リスクが高いことがあるため、ばらつきも併せて評価する。
エ．平均値は品質管理で使用せず、最大値だけを見ればよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。ばらつきの大きさが異なる場合がある。
イ：不適切。大きなばらつきは規格外リスクを高める。
ウ：適切。中心傾向だけでなく、範囲や標準偏差等のばらつきも重要である。
エ：不適切。目的に応じて平均とばらつきを組み合わせで評価する。
総合解説：適切。中心傾向だけでなく、範囲や標準偏差等のばらつきも重要である。この問題の中心論点は「平均値とばらつきを同時に評価する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0092 品質管理 > 統計的品質管理 | 難易度：標準

管理図上では工程が安定しているが、測定値の分布が規格上限に近く規格外も発生している場合の判断として、最も適切なものはどれか。
ア．管理限界内なら、規格外が発生しても問題ない。
イ．規格内の製品が1個あれば、工程全体は安定している。
ウ．規格値と管理限界は同じ概念なので、一方だけ確認すればよい。
エ．工程は統計的に安定していても、規格を満たす工程能力が不足している可能性があるため、中心やばらつきを改善する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。製品要求への適合は別途必要である。
イ：不適切。単一データで時間的安定性は判断できない。
ウ：不適切。目的が異なるため両方の観点が必要である。
エ：適切。工程の安定性と規格適合能力は別に評価する必要がある。
総合解説：適切。工程の安定性と規格適合能力は別に評価する必要がある。この問題の中心論点は「規格限界と管理限界を区別して判断する」である。定義だけでなく、現場条件、前後工程、品質確認や工期への影響まで結び付けて整理する。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0093 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

- 出来形測定の基本的な考え方として、最も適切なものはどれか。
- ア．設計図書で定められた基準寸法・位置・高さ等に対して実測し、許容範囲内かを確認する。
 - イ．完成後の外観が良ければ、寸法測定は不要とする。
 - ウ．設計値ではなく、前回測定値との一致だけで合否を決める。
 - エ．測定値が許容範囲外でも、平均値が設計値に近ければ合格とする。

答え・解説

正答：ア

- ア：適切。出来形管理は、施工された形状・寸法・位置等が要求事項に適合しているかを客観的に確認する管理である。
- イ：不適切。外観だけでは寸法・位置・高さ等の適合を確認できない。
- ウ：不適切。判定基準は設計図書等の要求値・許容差である。
- エ：不適切。個別に規格・許容差が定められている場合、その基準に従って判定する。
- 総合解説：適切。出来形管理は、施工された形状・寸法・位置等が要求事項に適合しているかを客観的に確認する管理である。この問題では「設計寸法と施工後寸法を適切に比較する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0094 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：基礎

- 床仕上げ高さを測定する場合の方法として、最も適切なものはどれか。
- ア．その日の最初に測った床面を新しい基準高さとして全階へ展開する。
 - イ．工事用ベンチマーク等の基準高さから測定し、使用した基準点と測定位置が追跡できるよう記録する。
 - ウ．測定位置は記録せず、測定値だけ一覧にする。
 - エ．基準点が移動した可能性があっても、再確認せず使用する。

答え・解説

正答：イ

- ア：不適切。誤差が累積するおそれがあるため、所定の基準点との関係を保持する。
- イ：適切。高さ管理では信頼できる基準点から測定し、測定基準と位置を明確にして再確認可能にする。
- ウ：不適切。どの位置の値が分からなければ出来形の追跡ができない。
- エ：不適切。基準点の信頼性に疑義があれば照合・再確認が必要である。
- 総合解説：適切。高さ管理では信頼できる基準点から測定し、測定基準と位置を明確にして再確認可能にする。この問題では「高さ管理で基準点を正しく使用する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0095 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

出来形測定に用いる測定器の選定として、最も適切なものはどれか。
ア．測定器は種類にかかわらず同じ精度なので、最も扱いやすいものを選ぶ。
イ．測定値は経験で補正できるため、器差や点検状態は確認しない。
ウ．要求される測定精度、対象寸法、現場条件に応じて、十分な精度を持つ測定器と測定方法を選ぶ。
エ．高精度な測定器ほど、どの測定にも必ず最適である。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。測定器ごとに適用範囲・分解能・精度が異なる。
イ：不適切。測定器自体の信頼性を確認する必要がある。
ウ：適切。要求精度に対して測定器の能力が不足していると、適合判定の信頼性が得られない。
エ：不適切。必要精度、測定範囲、作業性等に応じて合理的に選定する。
総合解説：適切。要求精度に対して測定器の能力が不足していると、適合判定の信頼性が得られない。この問題では「測定対象に適した測定器を選ぶ」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0096 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：応用

後工程で見えなくなる出来形の管理として、最も適切なものはどれか。
ア．隠蔽後に完成図から寸法を推定すればよい。
イ．隠蔽部は完成物の外観に影響しないため測定しない。
ウ．工程が遅れている場合は測定を省略し、次工程を優先する。
エ．埋戻しや仕上げで隠れる前に必要な寸法・位置等を測定し、記録と写真を残してから次工程へ進む。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。実際の施工出来形を確認した記録にはならない。
イ：不適切。構造・設備・性能等に重要な出来形が含まれる。
ウ：不適切。必要な品質確認を省略してはならない。
エ：適切。隠蔽後に確認困難となる部分は、確認可能な時点で測定・記録する必要がある。
総合解説：適切。隠蔽後に確認困難となる部分は、確認可能な時点で測定・記録する必要がある。この問題では「隠蔽前に必要な出来形を確認する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0097 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：基礎

広い床面の平坦さを出来形管理する場合の測定箇所の設定として、最も適切なものはどれか。
ア．施工範囲を代表できるよう測定位置を計画し、端部や開口周辺など品質変動が生じやすい箇所も必要に応じ確認する。
イ．最も仕上がりが良い1点だけ測定し、全体の出来形とみなす。
ウ．測定位置を毎回記録せず、測定者の自由にする。
エ．端部や取り合い部は施工が難しいため、測定対象から除外する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。都合のよい箇所だけでなく、施工範囲の状態を合理的に評価できる測定計画が必要である。
イ：不適切。測定の代表性がない。
ウ：不適切。再現性と追跡性が低下する。
エ：不適切。品質変動が生じやすい部分ほど確認が必要な場合がある。
総合解説：適切。都合のよい箇所だけでなく、施工範囲の状態を合理的に評価できる測定計画が必要である。この問題では「測定位置を代表性のある形で設定する」を押さえる。単に可否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0098 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

出来形測定で周囲と大きく異なる値が1点だけ得られた場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．他の値が良好なら、その1点は記録から削除する。
イ．測定位置、測定器、測定方法、基準点を確認して再測定し、実際の施工不良か測定上の問題かを判断する。
ウ．異常値は必ず施工不良とみなし、直ちに全範囲を解体する。
エ．同じ測定器で同じ方法を繰り返すだけで、基準点は確認しない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。除外には客観的根拠が必要である。
イ：適切。異常値を都合よく除外せず、測定系と施工状態の両方を確認する。
ウ：不適切。まず原因と影響範囲を確認する。
エ：不適切。基準点や測定器の異常も確認対象である。
総合解説：適切。異常値を都合よく除外せず、測定系と施工状態の両方を確認する。この問題では「測定値の異常を再確認する」を押さえる。単に可否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0099 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：基礎

鉄骨建方後に外装工事へ進む前の出来形管理として、最も適切なものはどれか。

ア．外装工事で隠れるため、鉄骨の出来形確認は竣工時に行う。

イ．出来形のずれは仕上材側で必ず吸収できるとみなす。

ウ．建入れや通り等、後工程の納まりに影響する出来形を確認し、必要な調整を完了してから外装工程へ進む。

エ．後工程が急いでいれば、測定結果未確認のまま着手する。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。後工程開始前に確認しないと手戻りが大きくなる。

イ：不適切。許容範囲や納まりには限界がある。

ウ：適切。前工程の出来形が後工程の施工性・品質へ影響する場合、中間確認を工程条件として管理する。

エ：不適切。重要な中間出来形の確認を完了して進むべきである。

総合解説：適切。前工程の出来形が後工程の施工性・品質へ影響する場合、中間確認を工程条件として管理する。この問題では「施工途中の出来形を次工程の条件として確認する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0100 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

施工途中で設計変更が承認された箇所の出来形測定として、最も適切なものはどれか。

ア．当初図面を基準に測定し、変更内容は竣工時にまとめて反映する。

イ．現場担当者の記憶を優先し、図面改訂履歴は確認しない。

ウ．変更箇所は測定対象から除外する。

エ．承認された最新図面・変更内容を測定基準とし、旧図面との混在を防いで判定する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。変更後の施工を旧基準で判定すると誤判定になる。

イ：不適切。正式な変更情報を確認する。

ウ：不適切。変更後の要求に対して出来形を確認する必要がある。

エ：適切。出来形は有効な最新要求事項に対して適合性を判定する必要がある。

総合解説：適切。出来形は有効な最新要求事項に対して適合性を判定する必要がある。この問題では「設計変更後の基準で出来形を判定する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0101 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：応用

同一工法を繰り返す施工で、出来形測定値が徐々に許容限界へ近づいている場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．規格内でも施工条件や基準設定のずれを確認し、規格外になる前に原因を是正する。

イ．すべて規格内なら傾向は無視し、管理を続ける。

ウ．許容限界へ近づくほど精度が高いと判断する。

エ．最後の測定値だけを残し、それ以前の記録は削除する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。現在の適合だけでなく、測定値の傾向から将来の不適合を予防することが重要である。

イ：不適切。異常傾向を早期に捉えることで不適合を予防できる。

ウ：不適切。限界に近いほど規格外リスクが高くなる。

エ：不適切。傾向把握には時系列記録が必要である。

総合解説：適切。現在の適合だけでなく、測定値の傾向から将来の不適合を予防することが重要である。この問題では「測定記録から傾向を把握する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0102 出来形管理 > 出来形測定 | 難易度：標準

出来形測定記録の整理方法として、最も適切なものはどれか。

ア．測定値だけを時系列で並べ、施工位置は記録しない。

イ．測定値を階、通り、部屋、部材番号等の施工位置と対応付け、どの箇所の結果が追跡できるようにする。

ウ．合格した測定値は位置情報を省略し、不合格だけ記録する。

エ．測定者ごとに独自の位置名称を用い、共通化しない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。どの箇所の出来形が特定できない。

イ：適切。測定結果と施工位置を紐付けることで、不具合時の影響範囲特定や再確認が容易になる。

ウ：不適切。品質記録は適合・不適合を含め追跡可能にする。

エ：不適切。位置識別を標準化しないと記録の利用性が低下する。

総合解説：適切。測定結果と施工位置を紐付けることで、不具合時の影響範囲特定や再確認が容易になる。この問題では「測定結果を施工区画と対応付ける」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0103 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：標準

営繕工事の工事写真の撮影方法として、最も適切なものはどれか。
ア．対象だけを接写し、どの場所か分からなくてもよい。
イ．写真は美観が最優先なので、管理情報は写さない。
ウ．撮影目的に応じ、工事名、工事種目、撮影部位、寸法・規格、撮影時期、施工状況等の必要事項が判別できるように撮影する。
エ．撮影時期は写真データから推測できるため、必要事項として扱わない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。撮影対象・部位等が判別できる記録性が必要である。
イ：不適切。工事写真は品質・施工状況の記録が目的である。
ウ：適切。営繕工事写真撮影要領では、必要事項を黒板等に記載し、対象とともに判読できるよう撮影する考え方が示されている。
エ：不適切。撮影目的に応じて施工段階・時期が分かる情報を確保する。
総合解説：適切。営繕工事写真撮影要領では、必要事項を黒板等に記載し、対象とともに判読できるよう撮影する考え方が示されている。この問題では「工事写真の目的に応じて必要事項を写し込む」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0104 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：基礎

仕上げ後に見えなくなる配筋や埋込み部の写真管理として、最も適切なものはどれか。
ア．仕上げ完了後の外観写真だけ残せば十分である。
イ．寸法確認用の写真だけ撮り、撮影場所は記録しない。
ウ．施工中の写真は不要で、完成図だけで代替する。
エ．隠蔽前に、全体位置が分かる写真と必要な寸法・詳細が確認できる写真を撮影し、施工箇所と対応付けて整理する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。隠蔽内部の施工状況を確認できない。
イ：不適切。位置が分からないと証拠性・追跡性が低下する。
ウ：不適切。完成図は実施工状況そのものの記録ではない。
エ：適切。隠蔽後に確認できない施工状況は、適切な時点で位置と詳細が分かる記録を残す。
総合解説：適切。隠蔽後に確認できない施工状況は、適切な時点で位置と詳細が分かる記録を残す。この問題では「隠蔽前の施工状況を写真で記録する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0105 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：標準

営繕工事写真の取扱いとして、最も適切なものはどれか。
ア．原則として工事写真の画像編集は行わず、撮影時の記録性を保つ。
イ．見やすくするため、不要物を画像処理で消去する。
ウ．寸法が読みづらければ、撮影後に数字を書き換える。
エ．不都合な箇所をトリミングして見えなくすることを標準とする。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。営繕工事写真撮影要領では工事写真の編集を行わないことを基本としている。
イ：不適切。施工状況の記録性を損なうため、原則として編集してはならない。
ウ：不適切。撮影内容を改変する行為は適切でない。
エ：不適切。工事写真は客観的な施工記録であり、恣意的な改変は避ける。
総合解説：適切。営繕工事写真撮影要領では工事写真の編集を行わないことを基本としている。この問題では「工事写真の編集禁止を理解する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0106 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：応用

大きな施工範囲の出来形を写真で記録する方法として、最も適切なものはどれか。
ア．詳細写真だけを撮り、施工位置は別途記録しない。
イ．施工箇所の位置関係が分かる全景写真と、寸法・仕上がり等を確認できる詳細写真を組み合わせる。

ウ．全景写真だけで、寸法や細部は判別できなくてもよい。
エ．同じ構図の写真を多数撮るほど、必ず記録品質が高くなる。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。写真だけでは場所を特定できないことがある。
イ：適切。全景は位置関係、詳細は品質内容を示すため、目的に応じて組み合わせると記録性が高まる。
ウ：不適切。確認したい品質特性が分かる詳細記録も必要である。
エ：不適切。撮影目的を満たす必要十分な写真を計画的に撮る。
総合解説：適切。全景は位置関係、詳細は品質内容を示すため、目的に応じて組み合わせると記録性が高まる。この問題では「全景と詳細を組み合わせる」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0107 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：基礎

- 出来形測定値と工事写真の整理方法として、最も適切なものはどれか。
- ア．写真と測定表は別々に保管し、対応関係を残さない。
 - イ．写真ファイル名はすべて同じ名称にして上書きする。
 - ウ．測定番号や施工位置を共通化し、測定記録と写真を相互に照合できるように整理する。
 - エ．測定値が合格なら、対応写真は削除する。

答え・解説

正答：ウ

- ア：不適切。後から対象を特定しにくくなる。
- イ：不適切。記録が失われ、識別できない。
- ウ：適切。測定値と写真が同じ対象を示すことが分かれれば、記録の追跡性と説明力が高まる。
- エ：不適切。必要な施工記録は適切に保存・整理する。
- 総合解説：適切。測定値と写真が同じ対象を示すことが分かれれば、記録の追跡性と説明力が高まる。この問題では「測定値と写真を対応付ける」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0108 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：標準

- 施工前・施工中・施工後の変化を写真で比較したい場合の方法として、最も適切なものはどれか。
- ア．各段階で全く異なる位置から撮り、場所情報は残さない。
 - イ．施工後の写真だけ撮り、施工前は記録しない。
 - ウ．撮影方向は毎回変えるほど客観性が高まる。
 - エ．撮影位置や方向をできるだけそろえ、同じ箇所であることが分かるよう段階別に記録する。

答え・解説

正答：エ

- ア：不適切。比較が難しくなる。
- イ：不適切。変化の比較には施工前記録も必要である。
- ウ：不適切。同一条件に近づけた方が比較性は高まる。
- エ：適切。定点性を高めることで施工前後の変化を比較しやすくなる。
- 総合解説：適切。定点性を高めることで施工前後の変化を比較しやすくなる。この問題では「同じ箇所を施工段階別に比較可能に記録する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0109 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：基礎

工事写真の判読性を確保する方法として、最も適切なものはどれか。
ア．対象物、必要な表示、寸法等が判読できる明るさ・距離・構図で撮影し、撮影直後に確認する。
イ．黒板の文字が読めなくても、現場担当者が覚えていればよい。
ウ．逆光で対象が見えなくても、撮影枚数を増やせばよい。
エ．寸法確認写真ではスケールが対象から離れていても問題ない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。撮っただけではなく、必要情報が読み取れることが工事写真の品質である。
イ：不適切。第三者が後から判読できる記録性が必要である。
ウ：不適切。必要情報が判読できる撮影条件に調整する。
エ：不適切。寸法関係が適切に読み取れる配置が必要である。
総合解説：適切。撮っただけではなく、必要情報が読み取れることが工事写真の品質である。この問題では「写真の判読性を確保する」を押さえる。単に可否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0110 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：標準

試験・検査等の工事記録の作成時期として、最も適切なものはどれか。
ア．竣工時に記憶をもとにまとめて作成する。
イ．試験・検査を行った時点で速やかに記録を作成し、対象と結果を正確に残す。
ウ．不合格結果は是正後に不要になるため、最初から記録しない。
エ．記録日は自由に変更し、工程表と一致させる。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。記憶違いや情報欠落のリスクが高い。
イ：適切。時間が経ってから記憶で再現するより、実施時点で記録した方が正確性と追跡性が高い。
ウ：不適切。処置経緯を含めて追跡可能にする。
エ：不適切。実際の実施時点を正確に記録する必要がある。
総合解説：適切。時間が経ってから記憶で再現するより、実施時点で記録した方が正確性と追跡性が高い。この問題では「工事記録を施工直後に作成する」を押さえる。単に可否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0111 出来形管理 > 写真・記録 | 難易度：応用

大量の工事写真を竣工時まで管理する方法として、最も適切なものはどれか。
ア．撮影順に保存するだけで、工種や場所による分類は行わない。
イ．各担当者が独自の命名規則を使い、統一しない。
ウ．工種、施工箇所、撮影時期等の共通ルールで分類し、必要な写真を後から検索・照合できるよう整理する。
エ．同じ写真を複数名で別々に加工保存し、原本との区別をしない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。大量になると必要写真を特定しにくい。
イ：不適切。全体で検索・共有しにくくなる。
ウ：適切。写真管理は撮影だけでなく、必要時に対象写真を特定できる整理方法まで含む。
エ：不適切。記録の一貫性・真正性が低下する。
総合解説：適切。写真管理は撮影だけでなく、必要時に対象写真を特定できる整理方法まで含む。この問題では「必要な写真を分類して検索可能に整理する」を押さえる。単に可否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0112 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：標準

施工中に不適合な材料や施工箇所が見つかった場合の初期対応として、最も適切なものはどれか。
ア．目印を付けず、担当者の記憶だけで管理する。
イ．不適合でも工程優先で次工程へ進める。
ウ．不適合範囲を調べず、工事全体を停止して全撤去する。
エ．対象を明確に識別し、誤使用・次工程への流出を防ぐとともに、影響範囲を確認する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。誤使用のリスクが高い。
イ：不適切。必要な処置・判定を行う前に流出させてはならない。
ウ：不適切。まず対象と影響範囲を合理的に特定する。
エ：適切。不適合管理では、まず不適合が意図せず使用・引渡しされないよう管理する。
総合解説：適切。不適合管理では、まず不適合が意図せず使用・引渡しされないよう管理する。この問題では「不適合品を識別して誤使用を防ぐ」を押さえる。単に可否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0113 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：基礎

品質管理における「修正」と「是正処置」の関係として、最も適切なものはどれか。
ア．修正は発見した不適合そのものへの処置であり、是正処置は再発を防ぐため原因に対して行う処置である。
イ．修正と是正処置は常に同じ意味である。
ウ．是正処置は不適合箇所を見た目だけ直すことをいう。
エ．修正を行った場合、原因分析は絶対に不要である。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。不具合を直すだけでなく、必要に応じて原因へ対策し再発防止につなげる。
イ：不適切。対象が不適合そのものか、原因・再発防止かで役割が異なる。
ウ：不適切。原因への対策が中心である。
エ：不適切。重大性や再発可能性に応じて原因分析が必要となる。
総合解説：適切。不具合を直すだけでなく、必要に応じて原因へ対策し再発防止につなげる。この問題では「修正と是正処置の違いを理解する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0114 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：標準

寸法不適合を修正した後の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．修正作業を実施した時点で自動的に合格とする。
イ．修正後の寸法を再測定し、要求事項を満たしたことを確認してから次工程へ進む。
ウ．次工程を進めてから、竣工時にまとめて再測定する。
エ．再検査は最初の検査者と異なる人なら測定値を記録しなくてよい。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。結果が要求事項を満たしたか再確認が必要である。
イ：適切。処置を行った事実だけでなく、処置後の適合性を再確認する必要がある。
ウ：不適切。次工程で隠蔽・手戻り拡大のおそれがある。
エ：不適切。誰が測定しても結果の記録が必要である。
総合解説：適切。処置を行った事実だけでなく、処置後の適合性を再確認する必要がある。この問題では「是正後に再検査する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0115 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：応用

同じ施工不良が複数区画で繰り返し発生した場合の原因分析として、最も適切なものはどれか。
ア．最初に作業者個人の責任と決め、その後の調査は行わない。
イ．不具合箇所を直せば、複数箇所でも発生しても原因分析しない。
ウ．作業方法、材料、施工班、機械、環境、指示内容等の事実を確認し、共通する要因を分析する。
エ．最も費用のかかる要因を原因とみなし、データは確認しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。真の原因を見逃し、再発防止につながらない可能性がある。
イ：不適切。反復発生は共通原因の存在を疑うべきである。
ウ：適切。再発防止には推測や個人責任だけでなく、工程・管理システムを含めた原因分析が必要である。
エ：不適切。事実とデータに基づいて分析する。
総合解説：適切。再発防止には推測や個人責任だけでなく、工程・管理システムを含めた原因分析が必要である。この問題では「不適合の原因を事実に基づき分析する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0116 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：基礎

ある材料ロットに不適合の疑いが生じた場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．どこに使用したか不明でも、問題が出るまで何もしない。
イ．同じ材料名なら別ロットもすべて同一不適合と断定する。
ウ．施工記録は不適合処理に使わない。
エ．材料ロットと施工区画の記録を照合し、使用箇所を特定して必要な追加確認を行う。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。疑いが生じた時点で影響範囲を確認する。
イ：不適切。ロット・試験結果等を確認し合理的に範囲を特定する。
ウ：不適切。使用箇所特定の重要な資料となる。
エ：適切。トレーサビリティを利用して影響範囲を絞り込むことで、適切な確認・処置につながる。
総合解説：適切。トレーサビリティを利用して影響範囲を絞り込むことで、適切な確認・処置につながる。この問題では「影響範囲をロット・施工履歴から特定する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0117 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：標準

要求値から外れた施工物を、そのまま使用できる可能性がある場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．性能・安全性等への影響を確認し、契約・品質管理上必要な協議・承認を得たうえで処置を決定する。

イ．現場担当者が使用可能と感じれば、そのまま採用する。

ウ．不適合を記録から削除すれば、適合品として扱える。

エ．性能影響を確認せず、工期だけを理由に使用する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。施工者の独断で要求事項を緩和せず、適切な権限者による判断と記録が必要である。

イ：不適切。要求事項からの逸脱を独断で承認してはならない。

ウ：不適切。記録改変では品質上の問題は解決しない。

エ：不適切。品質・安全・契約要求への影響評価が必要である。

総合解説：適切。施工者の独断で要求事項を緩和せず、適切な権限者による判断と記録が必要である。この問題では「特別採用等は所定の承認を得て扱う」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0118 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：標準

再発防止策を実施した後の管理として、最も適切なものはどれか。

ア．対策を指示した時点で有効性確認は不要とする。

イ．同種作業の後続データや検査結果を確認し、不適合の再発が抑えられているかを評価する。

ウ．再発しても同じ対策を無条件に継続する。

エ．有効性は担当者の感想だけで評価する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。対策が実際に機能したか確認が必要である。

イ：適切。是正処置は実施しただけでなく、期待した効果が得られたか確認して完了とする。

ウ：不適切。効果がないなら原因分析や対策を見直す。

エ：不適切。検査結果や発生件数等の客観的情報を用いる。

総合解説：適切。是正処置は実施しただけでなく、期待した効果が得られたか確認して完了とする。この問題では「是正処置の有効性を確認する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0119 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：応用

月ごとの不適合記録を品質改善に活用する方法として、最も適切なものはどれか。
ア．是正済みの不適合記録は分析対象からすべて除外する。
イ．発生件数だけを合計し、原因や工種で分類しない。
ウ．工種、原因、施工班、発生部位等で集計し、繰り返し発生する項目や増加傾向を重点的に改善する。

エ．不適合件数が少ない月は、内容にかかわらず分析不要とする。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。再発傾向や共通原因の分析に過去記録が有用である。
イ：不適切。重点改善項目を特定しにくい。
ウ：適切。個別不具合だけでなく蓄積データから傾向を把握すると、再発・横展開リスクを低減できる。
エ：不適切。重大性の高い不適合は件数が少なくても重要である。
総合解説：適切。個別不具合だけでなく蓄積データから傾向を把握すると、再発・横展開リスクを低減できる。
この問題では「不適合傾向を集計して予防に活用する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0120 出来形管理 > 不適合・是正 | 難易度：標準

隠蔽予定箇所の不適合が判明し、処置方針が未決定の場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．全体工程を守るため、その箇所だけ先に隠蔽する。
イ．写真を撮れば、不適合を残したまま隠蔽してよい。
ウ．処置方針は竣工時に決める。
エ．対象箇所の次工程を保留し、処置・再確認が完了してから隠蔽する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。必要な処置・確認前に次工程へ進めてはならない。
イ：不適切。記録は不適合処置の代替にならない。
ウ：不適切。次工程前に適切な判断・処置が必要である。
エ：適切。不適合を隠蔽すると確認・是正が困難になり、手戻りや品質リスクが拡大する。
総合解説：適切。不適合を隠蔽すると確認・是正が困難になり、手戻りや品質リスクが拡大する。この問題では「不適合と工程を連携して手戻り拡大を防ぐ」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0121 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

材料受入時の基本確認として、最も適切なものはどれか。
ア．品名、規格、製造者、数量、外観、必要な品質証明等を確認し、承認された材料と一致するか確認する。
イ．数量が合えば規格や製造者は確認しない。
ウ．外観損傷は施工で隠れるため確認しない。
エ．納品書があれば現物確認を省略する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。書類と現物を照合し、誤納・損傷・規格違いを使用前に防ぐ。
イ：不適切。要求された品種・規格との一致確認が必要である。
ウ：不適切。性能・仕上がりに影響する損傷の有無を確認する。
エ：不適切。書類と実物が一致するか確認する必要がある。
総合解説：適切。書類と現物を照合し、誤納・損傷・規格違いを使用前に防ぐ。この問題では「承認された材料と搬入品の一致を確認する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0122 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：基礎

材料の品質証明書を確認する方法として、最も適切なものはどれか。
ア．同じ製造者の証明書なら、別ロットにもそのまま流用する。
イ．証明書の材料名・規格・製造番号やロット等が、実際に搬入された材料と対応しているか確認する。

ウ．証明書の日付や対象材料は確認せず、書類が1枚あればよい。
エ．品質証明は現場搬入後の材料と関連付けなくてよい。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。対象ロットとの対応を確認する。
イ：適切。証明書が存在するだけでなく、対象材料との対応関係が確認できることが重要である。
ウ：不適切。内容の適合性が重要である。
エ：不適切。トレーサビリティのため対応付けが必要である。
総合解説：適切。証明書が存在するだけでなく、対象材料との対応関係が確認できることが重要である。この問題では「品質証明書の対象とロットを確認する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0123 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

仕上材が現場へ搬入された際、一部梱包が破れ水濡れしていた場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．外観だけの問題とみなし、すべて通常在庫へ混ぜる。

イ．水濡れした数量は記録せず、乾燥させれば自動的に使用可とする。

ウ．対象数量と状態を確認し、使用可否を判定するまで識別・隔離して、必要な処置を行う。

エ．梱包破損は運送会社の責任なので、現場の品質管理では扱わない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。材料性能や仕上げへの影響が不明な段階で混在させてはならない。

イ：不適切。材料特性に応じた使用可否の確認が必要である。

ウ：適切。受入時の損傷・濡れは品質へ影響する可能性があるため、良品と混在させず適合性を確認する。

エ：不適切。搬入時点で現場が使用する材料の適合性を確認する必要がある。

総合解説：適切。受入時の損傷・濡れは品質へ影響する可能性があるため、良品と混在させず適合性を確認する。この問題では「搬入時の損傷・汚染を確認する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0124 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：応用

指定材料が納期遅延し、代替材料を使用したい場合の対応として、最も適切なものはどれか。

ア．同等に見える材料なら現場判断だけで変更する。

イ．納期が短い材料を優先し、性能比較は行わない。

ウ．代替材料を先に施工し、竣工時にまとめて報告する。

エ．要求性能、規格、納まり等への適合を確認し、必要な協議・承認を得てから使用する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。性能・規格・意匠等の確認と必要な承認が必要である。

イ：不適切。工程だけでなく要求品質を満たす必要がある。

ウ：不適切。使用前に必要な承認を得る。

エ：適切。施工者の判断だけで契約要求を変更せず、適合性と承認手続きを確保する。

総合解説：適切。施工者の判断だけで契約要求を変更せず、適合性と承認手続きを確保する。この問題では「代替材料は承認を得て使用する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0125 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：基礎

承認見本で色・質感を確認した仕上材の本搬入時の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．量産品が承認見本の色・質感・規格等と整合しているか、必要な範囲で確認する。
イ．承認見本があれば本搬入品は確認しない。
ウ．量産品が見本と異なっても、数量がそろっていれば受け入れる。
エ．見本は打合せ用であり、受入判定には利用しない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。見本承認後も、実際に使用する量産品が承認内容と一致していることを確認する。
イ：不適切。製造ロットや誤納等による差異があり得る。
ウ：不適切。要求された外観・品質との一致確認が必要である。
エ：不適切。承認見本は外観等の重要な判定基準となる。
総合解説：適切。見本承認後も、実際に使用する量産品が承認内容と一致していることを確認する。この問題では「見本と量産品の一致を確認する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0126 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

大量の同種材料を複数回に分けて受け入れる場合の管理として、最も適切なものはどれか。
ア．すべて同じ材料名ならロットを区別しない。
イ．製造ロットや搬入便、受入日等を識別し、品質証明・検査結果・使用箇所と対応付ける。
ウ．使用箇所との対応は不要で、倉庫への入庫日だけ記録する。
エ．検査結果はロットと無関係に一括保存する。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。製造時期や品質証明の対象が異なる場合がある。
イ：適切。ロット管理により、不具合時の影響範囲を特定しやすくなる。
ウ：不適切。トレーサビリティ確保には使用箇所との対応が重要である。
エ：不適切。どの材料に対する結果が分からなくなる。
総合解説：適切。ロット管理により、不具合時の影響範囲を特定しやすくなる。この問題では「材料の受入ロットを明確にする」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0127 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：基礎

材料受入時の数量確認の目的として、最も適切なものはどれか。
ア．数量不足は施工当日に分かればよいので、受入時には確認しない。
イ．数量過剰は品質に関係しないため、保管スペースを考慮しない。
ウ．発注数量・納品数量を確認し、施工前に不足や過剰、分納状況を把握して工程・保管計画へ反映する。
エ．分納品は最終便到着時にまとめて数量確認する。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。工程遅延を防ぐため早期把握が必要である。
イ：不適切。過剰在庫は保管条件・荷傷み・動線へ影響する。
ウ：適切。数量確認は支払だけでなく、施工継続性や保管スペースの管理にも関係する。
エ：不適切。各搬入時点で受入数量を管理する。
総合解説：適切。数量確認は支払だけでなく、施工継続性や保管スペースの管理にも関係する。この問題では「数量不足を早期に把握する」を押さえる。単に可否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0128 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

材料の試験成績書を受領した場合の確認として、最も適切なものはどれか。
ア．成績書に「合格」と書いてあれば、試験項目や規格は確認しない。
イ．対象ロットが違ってても同じ製品名なら使用する。
ウ．試験結果が要求外でも、納期優先で受け入れる。
エ．試験項目、結果、適用規格、対象ロットを確認し、設計図書等で要求された品質を満たしているか判定する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。今回の要求事項に適合しているか内容確認が必要である。
イ：不適切。試験結果と対象材料の対応を確認する。
ウ：不適切。要求品質への適合を確認し、外れる場合は適切な処置が必要である。
エ：適切。書類があること自体ではなく、要求項目に対する結果と対象材料の対応を確認する。
総合解説：適切。書類があること自体ではなく、要求項目に対する結果と対象材料の対応を確認する。この問題では「試験成績書と要求規格を照合する」を押さえる。単に可否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0129 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：応用

受入検査で規格違いの材料が混在していた場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．規格違い品を識別・分離し、良品との混在を防いで、返品・交換等の処置が決まるまで使用しない。

- イ．色が似ているので良品と同じ場所に積み、使用時に見分ける。
- ウ．不足分を補うため、規格違い品から先に使う。
- エ．納品業者へ連絡したら、現場側の識別は解除する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。誤使用防止のため不適合品の識別と隔離が基本である。
イ：不適切。誤使用のリスクが高い。
ウ：不適切。要求事項に適合しない材料を無断使用してはならない。
エ：不適切。処置完了まで誤使用防止管理を継続する。
総合解説：適切。誤使用防止のため不適合品の識別と隔離が基本である。この問題では「不適合材料を良品と分離する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0130 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：基礎

長納期の製作材料について、材料管理と工程管理を連携する方法として、最も適切なものはどれか。
ア．発注後は納品予定日まで進捗確認を行わない。
イ．承認、発注、製作、検査、輸送、受入の各段階を管理し、現場必要日に間に合うか継続的に確認する。
ウ．工場検査で問題があっても受入予定日は変えない。
エ．長納期品は現場受入検査を省略してよい。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。製作遅延等を早期に把握する必要がある。
イ：適切。材料管理は現場到着後だけでなく、調達工程全体を管理することで施工遅延を予防できる。
ウ：不適切。是正・再検査の影響を工程へ反映する。
エ：不適切。搬入品の適合性確認は必要である。
総合解説：適切。材料管理は現場到着後だけでなく、調達工程全体を管理することで施工遅延を予防できる。この問題では「長納期品は受入時期まで工程管理する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0131 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

使用期限や可使期間がある材料の受入管理として、最も適切なものはどれか。
ア．期限表示はメーカー内部情報なので確認しない。
イ．期限切れでも外観が正常なら無条件で使用する。
ウ．製造日・使用期限等を確認し、施工予定日まで適切な品質を保持できる数量・時期で受け入れる。
エ．保管期間が長いほど材料品質は安定すると考える。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。材料の使用可否に係る重要情報である。
イ：不適切。所定の品質保証条件を確認する必要がある。
ウ：適切。期限管理が必要な材料は、早すぎる大量搬入が品質劣化や廃棄につながることもある。
エ：不適切。材料によっては経時劣化する。
総合解説：適切。期限管理が必要な材料は、早すぎる大量搬入が品質劣化や廃棄につながることもある。この問題では「材料の有効期限・使用期限を確認する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0132 資材・機械管理 > 材料受入 | 難易度：標準

材料受入記録の内容として、最も適切なものはどれか。
ア．納品業者名だけを記録すればよい。
イ．合格材料は記録せず、不合格だけ記録する。
ウ．記録は担当者の個人メモとし、現場で共有しない。
エ．受入日、材料名、規格、数量、ロット、確認結果、不適合処置等を記録し、使用可否が追跡できるようにする。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。材料の識別・判定に必要な情報が不足する。
イ：不適切。受入実績全体を適切に記録する。
ウ：不適切。必要な関係者が参照できる管理記録とする。
エ：適切。材料の受入から使用までを追跡できる記録は品質保証に有効である。
総合解説：適切。材料の受入から使用までを追跡できる記録は品質保証に有効である。この問題では「受入結果を記録して使用可否を明確にする」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0133 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

車両系建設機械を用いる作業の計画として、最も適切なものはどれか。
ア．地形・地盤等を踏まえて作業方法や運行経路を定め、関係者へ周知して作業する。
イ．運転者が熟練していれば、作業計画は不要である。
ウ．運行経路は当日の空き状況で自由に変更し、周知しない。
エ．地盤状態は建設機械の作業計画に影響しない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。車両系建設機械では、現場条件に応じた作業計画を定め、計画に基づく作業管理が重要である。
イ：不適切。熟練度にかかわらず計画的な作業管理が必要である。
ウ：不適切。人・他機械との接触防止のため計画・周知が必要である。
エ：不適切。転倒・沈下等の安全性に直接関係する。
総合解説：適切。車両系建設機械では、現場条件に応じた作業計画を定め、計画に基づく作業管理が重要である。この問題では「車両系建設機械の作業計画を事前に定める」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0134 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：基礎

車両系建設機械の作業開始前の管理として、最も適切なものはどれか。
ア．前日に正常なら、その日の点検は不要である。
イ．その日の作業開始前に必要な機能を点検し、異常があれば適切な処置をしてから使用する。
ウ．異常があっても作業終了後に修理すればよい。
エ．点検は外観だけでよく、機能確認は行わない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。日々の作業開始前点検が必要である。
イ：適切。労働安全衛生規則では車両系建設機械について作業開始前点検が定められている。
ウ：不適切。安全に影響する異常を放置して使用してはならない。
エ：不適切。必要な機能について点検する。
総合解説：適切。労働安全衛生規則では車両系建設機械について作業開始前点検が定められている。この問題では「作業開始前点検を行う」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0135 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

軟弱な地盤上で重機を使用する場合の対応として、最も適切なものはどれか。
ア．機械が自走できれば地盤補強は不要と判断する。
イ．アウトリガーを設置すれば地盤支持力は確認しなくてよい。
ウ．地盤支持状況を確認し、必要に応じて敷鉄板等で補強して沈下・転倒を防止する。
エ．雨後の地盤変化は確認せず、前日と同じ条件として扱う。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。走行可能でも作業時の荷重で沈下・転倒するおそれがある。
イ：不適切。アウトリガー反力を支持できる地盤条件が必要である。
ウ：適切。建設機械の安定性は機械性能だけでなく設置地盤の支持条件に左右される。
エ：不適切。降雨等で支持状態が変化するため再確認が必要である。
総合解説：適切。建設機械の安定性は機械性能だけでなく設置地盤の支持条件に左右される。この問題では「軟弱地盤で機械の安定性を確保する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0136 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：応用

バックホウ等と作業員が同じ区域で作業する場合の安全管理として、最も適切なものはどれか。
ア．運転者が周囲を注意すれば、作業員は旋回範囲内を自由に通行できる。
イ．警笛を鳴らせば、物理的な立入管理は一切不要である。
ウ．機械停止中だけ区域を分け、運転開始後は区画を解除する。
エ．旋回・走行範囲への立入りを管理し、必要に応じて誘導者を配置するなど接触防止措置を講じる。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。死角等があるため立入管理が必要である。
イ：不適切。現場条件に応じ複数の接触防止対策を講じる。
ウ：不適切。運転時こそ接触防止が必要である。
エ：適切。建設機械には死角や旋回範囲があり、人と機械の動線分離が重要である。
総合解説：適切。建設機械には死角や旋回範囲があり、人と機械の動線分離が重要である。この問題では「人と建設機械の接触を防ぐ」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0137 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：基礎

クレーン等の建設機械の使用方法として、最も適切なものはどれか。
ア．作業半径、荷重、設置条件等を確認し、機械の定められた能力範囲内で使用する。
イ．最大能力はどの作業半径でも同じとみなす。
ウ．短時間なら能力を超える荷重でも使用してよい。
エ．設置地盤は能力計算と無関係なので確認しない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。機械能力は使用条件によって変化するため、実際の作業条件で安全な範囲を確認する。
イ：不適切。作業半径等により能力は変化する。
ウ：不適切。定められた能力を超えて使用してはならない。
エ：不適切。安定性に関係する重要条件である。
総合解説：適切。機械能力は使用条件によって変化するため、実際の作業条件で安全な範囲を確認する。この問題では「機械の能力範囲内で使用する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0138 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

建設機械の使用方法として、最も適切なものはどれか。
ア．作業が短時間なら、本来用途以外でも自由に使用する。
イ．機械とアタッチメントの用途・能力・取扱条件に適合した作業へ使用する。
ウ．アタッチメント変更後も、機械特性や能力の変化は確認しない。
エ．経験のある運転者なら、取扱条件を確認しなくてよい。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。用途外使用は安全性を損なう。
イ：適切。本来用途や能力を外れた使用は、機械破損や転倒・落下等のリスクを高める。
ウ：不適切。重量・重心・能力等への影響を確認する。
エ：不適切。メーカー仕様・安全条件を守る必要がある。
総合解説：適切。本来用途や能力を外れた使用は、機械破損や転倒・落下等のリスクを高める。この問題では「用途に適した機械・アタッチメントを使用する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0139 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

運転者から荷や作業員が見えにくい建設機械作業の管理として、最も適切なものはどれか。
ア．周囲の誰でも自由に合図を出す。
イ．声が届かない場合は、運転者の推測で作業を続ける。
ウ．必要な誘導者・合図者を定め、合図方法を統一して運転者と関係者へ周知する。
エ．合図方法は作業員ごとに異なっていてよい。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。指示が競合し誤操作の原因となる。
イ：不適切。確実な連絡手段を確保する。
ウ：適切。合図を複数人が勝手に出すと誤操作につながるため、役割と方法を明確にする。
エ：不適切。共通の合図方法を定め周知する。
総合解説：適切。合図を複数人が勝手に出すと誤操作につながるため、役割と方法を明確にする。この問題では「死角のある作業で合図方法を統一する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0140 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：応用

建設機械の点検・自主検査記録の活用方法として、最も適切なものはどれか。
ア．点検済みの記録は使用後すぐ廃棄する。
イ．故障した部品だけ交換し、同様の異常傾向は確認しない。
ウ．機械の保守履歴は工程計画に影響しない。
エ．点検結果や修理履歴を確認し、異常傾向や交換時期を把握して予防保全に活用する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。必要な記録を保持し履歴管理に活用する。
イ：不適切。履歴から共通原因や予兆を把握できる。
ウ：不適切。定期検査・修理停止は稼働計画に反映する必要がある。
エ：適切。点検記録は法定・管理上の記録だけでなく、故障予防や安全な稼働計画に活用できる。
総合解説：適切。点検記録は法定・管理上の記録だけでなく、故障予防や安全な稼働計画に活用できる。この問題では「自主検査・点検記録を保守へ活用する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0141 資材・機械管理 > 建設機械 | 難易度：標準

1台の建設機械を複数工区で共有する場合の管理として、最も適切なものはどれか。

ア．各工区の必要時期、移動時間、点検・整備時間を工程に組み込み、資源競合が生じないよう配車する。

イ．各工区が同時刻に予約していても、現場で先着順に使用する。

ウ．移動時間は作業ではないため工程に含めない。

エ．点検時間を削れば稼働率が上がるので、工程が遅れたときは点検を省略する。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。建設機械は共有資源であり、作業計画・安全管理と工程管理を連携する必要がある。

イ：不適切。工程遅延や混乱を招くため事前調整する。

ウ：不適切。機械の配置転換にも時間が必要である。

エ：不適切。必要な点検を省略してはならない。

総合解説：適切。建設機械は共有資源であり、作業計画・安全管理と工程管理を連携する必要がある。この問題では「建設機械の稼働と工程を調整する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0142 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：標準

現場で材料を保管する方法として、最も適切なものはどれか。

ア．屋外材料はすべて直接地面へ置く。

イ．材料の性質に応じて、地面からの湿気・汚れ・水濡れ・変形等を防ぐ保管方法とする。

ウ．保管期間が短ければ養生は一切不要とする。

エ．材料特性にかかわらず同じ保管方法を用いる。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。吸湿、汚染、腐食、変形等の原因となる場合がある。

イ：適切。保管中の品質劣化を防ぎ、施工時に要求品質を保持していることが重要である。

ウ：不適切。短期間でも降雨・汚損等のリスクはある。

エ：不適切。湿気、温度、紫外線等への感受性は材料ごとに異なる。

総合解説：適切。保管中の品質劣化を防ぎ、施工時に要求品質を保持していることが重要である。この問題では「材料を地面から離して適切に保管する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0143 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：基礎

外観が似た複数種類の材料を同じ倉庫で保管する場合の管理として、最も適切なものはどれか。
ア．同じ色なら混ぜて保管し、施工時に担当者が見分ける。
イ．梱包を外して表示を捨て、スペースを節約する。
ウ．品名、規格、ロット等を表示して区分し、誤使用しないよう保管場所と識別を明確にする。
エ．ロット管理は受入時だけ行い、保管中は区別しない。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。誤使用のリスクが高い。
イ：不適切。材料識別情報を失うおそれがある。
ウ：適切。類似材料の混同を防ぐため、物理的区分と表示を組み合わせる。
エ：不適切。使用時まで識別可能な状態を維持する。
総合解説：適切。類似材料の混同を防ぐため、物理的区分と表示を組み合わせる。この問題では「異なる材料・ロットを識別して保管する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0144 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：標準

使用期限のある材料を複数回に分けて搬入する場合の保管管理として、最も適切なものはどれか。
ア．新しく搬入した材料を常に手前に置き、古い材料を奥に残す。
イ．使用期限は受入時だけ確認し、保管中は確認しない。
ウ．期限が切れても外観が同じなら通常品として使う。
エ．製造日・使用期限を識別し、品質条件を満たす範囲で期限の早い材料から使用できるよう配置・管理する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。古い在庫が長期滞留しやすくなる。
イ：不適切。使用時点で有効期限内か確認できる管理が必要である。
ウ：不適切。所定の品質保証条件を確認する必要がある。
エ：適切。期限管理により長期滞留や期限切れを防ぎ、廃棄と品質リスクを低減する。
総合解説：適切。期限管理により長期滞留や期限切れを防ぎ、廃棄と品質リスクを低減する。この問題では「先入れ品の期限を考慮して使用順序を管理する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0145 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：応用

狭隘な現場で大量の仕上材を搬入する計画として、最も適切なものはどれか。
ア．施工場所・取付順序に合わせて分割搬入し、仮置き量と二重運搬を抑える。
イ．工事初日に全量を搬入し、空いている場所へ積み上げる。
ウ．施工順序と搬入順序は独立して計画する。
エ．荷下ろし場所は当日の空き場所だけで決める。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。施工順序と搬入を同期すると、保管スペース不足、荷傷み、場内物流混乱を低減できる。
イ：不適切。長期保管と二重運搬のリスクが高い。
ウ：不適切。同期させることで物流効率が向上する。
エ：不適切。車両動線や揚重計画を含め事前調整する。
総合解説：適切。施工順序と搬入を同期すると、保管スペース不足、荷傷み、場内物流混乱を低減できる。この問題では「搬入順序を施工順序と同期させる」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0146 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：基礎

長尺材を現場保管する方法として、最も適切なものはどれか。
ア．スペース節約のため、支持点を減らして高く積む。
イ．支持位置や積み重ね高さを材料特性に応じて設定し、たわみ・変形・荷崩れを防止する。
ウ．長尺材は自重で安定するため、転倒・転がり防止は不要である。
エ．保管中の変形は施工時に必ず戻るので管理しない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。たわみや荷崩れのリスクが高まる。
イ：適切。保管時の支持条件や積載方法が材料の変形・損傷へ影響する。
ウ：不適切。材料形状に応じた安定措置が必要である。
エ：不適切。残留変形や損傷につながる可能性がある。
総合解説：適切。保管時の支持条件や積載方法が材料の変形・損傷へ影響する。この問題では「材料の積み重ねによる変形・荷崩れを防ぐ」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0147 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：標準

屋外で保管せざるを得ない仕上材料の管理として、最も適切なものはどれか。
ア．シートを完全密閉すれば、内部結露は考慮しなくてよい。
イ．屋外保管可能かどうかは確認せず、すべて同じ方法で養生する。
ウ．材料の耐候性を確認し、必要な防水・遮光・通風等を行い、雨水がたまらない状態で保管する。
エ．雨が止めば濡れた材料をすぐ梱包し直して使用する。

答え・解説

正答：ウ

ア：不適切。材料によっては通風や結露対策も必要である。
イ：不適切。材料ごとの保管条件を確認する。
ウ：適切。材料特性に応じて水分、紫外線、温度等による品質劣化を防ぐ。
エ：不適切。濡れの影響と乾燥状態を確認する必要がある。
総合解説：適切。材料特性に応じて水分、紫外線、温度等による品質劣化を防ぐ。この問題では「屋外保管で雨水・紫外線等の影響を防ぐ」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0148 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：基礎

大型資材の搬入・荷下ろし計画として、最も適切なものはどれか。
ア．車両が到着してから荷下ろし場所を探す。
イ．資材重量は運送会社が把握しているため、揚重機側では確認しない。
ウ．荷下ろし中でも歩行者を自由に通行させる。
エ．車両経路、待機場所、荷下ろし位置、揚重機能力、周囲立入管理、搬入時間を事前に調整する。

答え・解説

正答：エ

ア：不適切。場内混乱や道路滞留の原因となる。
イ：不適切。揚重能力の確認に荷重情報が必要である。
ウ：不適切。作業範囲への立入管理が必要である。
エ：適切。搬入と荷下ろしは物流・揚重・安全が一体となる作業である。
総合解説：適切。搬入と荷下ろしは物流・揚重・安全が一体となる作業である。この問題では「搬入車両と荷下ろし作業を事前調整する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0149 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：標準

長期間保管する材料の管理として、最も適切なものはどれか。
ア．保管中も定期的に包装、錆、変形、漏水、期限等を確認し、異常があれば早期に処置する。
イ．受入時に合格していれば、使用直前まで確認しない。
ウ．包装が破れていても材料本体を見ずに放置する。
エ．錆や変形は施工後に隠れるなら品質上問題ない。

答え・解説

正答：ア

ア：適切。受入時に適合していても、保管環境や時間経過で品質が変化する可能性がある。
イ：不適切。長期保管中に劣化することがある。
ウ：不適切。保護機能が失われている可能性があり確認が必要である。
エ：不適切。性能・施工性へ影響する可能性がある。
総合解説：適切。受入時に適合していても、保管環境や時間経過で品質が変化する可能性がある。この問題では「保管中の定期確認で劣化を早期発見する」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01

0150 資材・機械管理 > 保管・搬入 | 難易度：応用

工事の進捗に伴って資材の種類と量が大きく変化する場合の保管計画として、最も適切なものはどれか。
ア．着工時の資材置場を工事完了まで固定する。
イ．施工段階ごとに必要在庫・搬入頻度・置場面積を見直し、動線や次工程を妨げないよう配置を更新する。
ウ．使い終わった資材や空梱包を置場に残し、移動しない。
エ．搬入頻度が増えても置場や車両動線は見直さない。

答え・解説

正答：イ

ア：不適切。工事進捗で利用可能空間と必要資材が変わる。
イ：適切。躯体期と仕上期では保管する材料や物流が異なるため、資材ヤードも段階的に最適化する。
ウ：不適切。ヤード不足や動線障害の原因となる。
エ：不適切。物流条件の変化に応じて計画を更新する。
総合解説：適切。躯体期と仕上期では保管する材料や物流が異なるため、資材ヤードも段階的に最適化する。この問題では「資材置場を工程進捗に応じて見直す」を押さえる。単に合否だけでなく、記録・工程・再確認まで含めて現場管理として判断することが重要である。

対象：2026年度 / 法令・制度基準日 2026-01-01